

No.28 >>> Contents

●年頭所感

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と蚕糸業の振興

..... (財)大日本蚕糸会 会頭 高木 賢 ————— ①

●提携支援センターから

蚕彩会の「いろどり」と伊勢型紙と東京染小紋

..... 蚕彩会／装いの道株式会社 秋山 徹 ————— ②

絹洋装肌着の開発で頑張る「秩父シルクの会」

..... 秩父シルクの会 代表 有限会社 HAC 松本 信孝 ————— ⑦

平成 24 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ⑫

提携支援センター活動日誌 ⑬

●提携事業と新蚕品種

玉繭を生産する蚕品種

..... (財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 所長 井上 元 ————— ⑭

●蚕糸絹トピックス

『日本の絹展』(平成 24 年度第 9 回)を開催

— 伝統工芸から創作デザインまで「染・織で綾なす」美と技の祭典 —

..... (社)日本絹業協会 ————— ⑮

「実りのフェスティバル」(第 51 回)に参加して・・ (社)日本絹業協会 ————— ⑲

●全国連絡協議会だより

1% が織りなす美 純国産「宝絹 takaraginu」展の概要 ⑳

●蚕糸絹情報

群馬県で「蚕糸絹業特別講演会」を開催

..... 群馬県農政部蚕糸園芸課 蚕糸係長 岡 喜久男 ————— ㉒

●トピックス

国内産地情報、海外シルク情報(中国・ウズベキスタン) ㉘

●イベント情報

..... ㉚

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

..... ㉜

●蚕糸関係博物館一覧

..... ㉞

●蚕糸関係機関ホームページ一覧

..... ㉟

●統計資料(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

..... ㊱

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と蚕糸業の振興



(財)大日本蚕糸会
会 頭 高 木 賢

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界遺産に登録するための正式推薦書が近々提出されることになり、明年世界遺産として登録される可能性が極めて高くなってきました。これが現実のこととなれば、蚕糸業界にとって久々の快挙になります。さらに運動を盛り上げ、登録を確実なものにしていかなければなりません。

蚕糸業界はここしばらく低迷が続いていたのが正直なところですが、大きな元気のもとが生まれるわけです。今のところ推測の域を出ませんが、1年間の来訪者は、80万人以上とも言われています。これだけの大勢の人が訪れる絹関係の施設ないしイベントは京都の西陣織会館くらいのものではないかと思います。

ところで、このせっかくの快挙を目前にして、観光面での対応はともかく、蚕糸関係者は蚕糸業の振興と結びつけた取り組みをしているのでしょうか。来訪を富岡製糸場だけで終わらせないで、さらに蚕糸業の振興につなげていく方策はないのでしょうか。例えば、富岡製糸場と製糸工場や養蚕農家を結ぶ新シルクロードを設定し、実際に繰糸をしている工場、蚕を飼っている現場をも併せて見ていただくような設計はできないのでしょうか。さらには、新シルクロードの一環として、富岡製糸場の中又はその他の場所に、しゃれた純国産絹製品の広報展示・即売の場を設けることも考えられます。

最近の動向として注目されるのは、川下の絹織物販売業の方が碓氷製糸の見学をしたり、桑苗を植え付ける体験をするという動きが出ていることです。川上に対する関心は確かにあると言えます。富岡製糸場の来訪者全員でなくてもよいのです。たとえその1割が新シルクロードを巡ったとしても相当な人数になります。

いずれにしても、富岡に行く人は、生糸や絹についてそれなりの親近感を持っていてわざわざ出かけるわけですから、これを見逃す手はないのです。

現実の世界遺産への登録は1年半ほど先のことになる見込みですが、それまでの間、運動を盛り上げる一方で、せっかくの好機到来を生かすべく蚕糸関係者の知恵出しが期待されるところです。

蚕彩会の「いろどり」と伊勢型紙と東京染小紋

蚕彩会／装いの道株式会社

秋山 徹

伝統技法の付加価値

蚕彩会の担当する純国産繭は、埼玉県秩父産の「いろどり」ですが、われわれはこの繭を全て着尺・帯用の白生地加工しました。希少な純国産絹を画一的な製品とするのではなく、一反一反に和装の伝統技法を施して付加価値を加えながら、その品質をより高めようという意図からです。

その伝統技法としてわれわれが目にしたのが、昔ながらの「伊勢型紙を使った東京染小紋」の技法を使った「留型」です。

留型とは現在、問屋や小売店が自社専用に作り、他店で使用を禁じた型紙、意匠。また、それらから染められた反物などのことをいいます。

かつて江戸時代初期から、各大名は各々の藩独特の模様を作り出し、それらは小紋染めの手法で染められました。そして、参勤交代の際に家臣に着せたりして、他藩との区別・差別化を図っていました。今でいうユニフォームに近いものかもしれません。

太い縦縞と細い縦縞の「薩摩縞」、太い線の両脇に細い線の「南部筋」、荒目のサメ小紋「鍋島小紋」などが、これにあたり

ます。これらも留型の一つですが、「留柄」と呼ばれることが多いようです。

その後、江戸中期以降に町人文化が発達し、小紋は身分や時代を超えて一般の人々に愛されるようになりました。やがて紺屋は染めの見本帳を持って各地を行商し、見本を基にどのような色合わせをするかを提案して、客から注文を受けることが当たり前になりました。同じ柄でも色合わせが変われば全く違ったものに染め上がるため、これも留型に近いかもしれません。

このように本来きものは、少量で受注生産されてきたものであり、大量生産・大量消費にはそぐわないものです。

そこで蚕彩会では、東京染小紋の二葉苑、三重県白子の老舗伊勢型紙問屋の協力を得て、真の留型、蚕彩会オリジナルの「東京染小紋の留型」を企画しました。

真の留型とは、ひとりだけの型紙を使い、ひとりだけの色合わせで、東京染小紋の染めで、世界に一枚だけのきものを作るということです。染め上がった後、型紙はきものとともに、購入者の許に届くため、他の人が同じ柄のきものを着ることはありません。

型紙は、伊勢白子で大正13年に創業し

た型紙問屋所有の2万枚の中から厳選した柄の型紙からお客さんに選んで頂きます。

伊勢型紙

「本能寺の変」と神君伊賀越え

天正10年6月2日「本能寺の変」による織田信長横死の知らせは各地に駆け、信長の誘いに応じて堺の街を見学していた徳川家康の元にもいち早く届きました。この時、家康は領地の三河岡崎まで戻るには伊賀越えをしなければなりません。伊賀越え（いがごえ）は、鈴鹿山脈を越えて伊勢湾に抜ける道を指しますが、この地域は複数の豪族が割拠していて、少ない供廻りで家康がここを通り抜けることは大きな危険を伴っていました。しかし、家康は服部半蔵が指揮する伊賀者に守られて無事白子湊にたどり着き、ここで大湊の商人角屋が仕立てた船に乗船し、小川孫三の案内で大湊に渡りつき岡崎に戻ったといわれています。この家康の生涯最大の危機は「神君伊賀越え」として伝えられています。

これ以降、伊賀者は家康に召し抱えられ、江戸幕府の隠密活動などに従事するようになったといわれています。

一方白子は、江戸時代には、徳川御三家の紀州藩の領地となり、紀州藩の朱印を持つ白子の廻船は優遇されて自由闊達な商売が出来て、その結果伊勢商人の中には江戸支店を持つ者も少なくなかったということです。

白子の型紙販売もまた行商上の数々の特権を得て他の地を圧倒しました。さらに宝暦三年に定められた「株仲間」により、きものの型染めに、必要不可欠な型紙を有利

な条件で扱い、独占的な地位を占めて、これが今日型紙といえば「伊勢型紙」といわれる所以となりました。

間接的にはありますが、「本能寺の変」が、伊勢型紙の源を作ったということが出来るでしょう。



『白子郷土史』によれば、神君徳川家康は小川孫三の案内で、夜の闇にまぎれこの白子湊から大湊へ渡ったとされている。

伊勢型紙伝統工芸士／内田勲さん

伊勢型紙は「送りの美学」

型紙彫りの彫り師として一人前になるには、まず最低五年はかかりますね。彫りの技術もさることながら、道具を作れるようになるのに時間がかかる。私たちは、基本的に自分が使う道具・彫刻刀は、自ら制作しますが、これに技術と経験を必要とするのです。

伊勢型紙彫りには、「突き彫り（つきぼり）」「錐彫り（きりぼり）」「道具彫り（どうぐぼり）」「縞彫り（しまぼり）」の四つの技法がありますが、一人の職人は生涯一つの技法のみで彫ります。私は「突き彫り」をやっていますので、他の三つの技法を兼用で使うことはありません。自分が選んだ技法を極めようと修練しています。他の技法をやる余裕などないくらい奥が深いとい

うことでしょうか。

型紙彫りでは、小本（こほん）作りが重要となります。小本は柄の大元・基本（マスター）となるもので、柄全体の出来上がりがこの小本にかかっていますから、全神経を集中しなければなりません。

こうして出来上がった型紙は、江戸時代から約4寸（約15センチ）幅が主ですが、これは染め師が染め易いように工夫されたものです。しかし、一反約12メートルの布で、染め師は約80回以上型口を合わせながら、型紙を送って染めなければなりません。精緻な柄であればあるほど、その難易度は上がっていきます。

彫り師はより修練して精緻で美しい柄を彫り出し、染め師はその美しさを十二分に染め出すために技術を磨く。彫り師と染め師が互いに切磋琢磨する真剣勝負、これが伊勢型紙の「送りの美学、だ」と思います。

残念なことに細かい小紋柄を染める技術を持った染め師が、現在は少なくなっていました。腕の良い染め師が減ればまたそれに見合った腕の彫り師も減ってしまいます。

以前、嫁入り道具の中には「小紋三役」のきものが含まれていました。「小紋三役」とは、通し（とおし）、行儀（ぎょうぎ）、鯨（さめ）の文様ですが、これには嫁ぎ先で、「筋を通し、行儀よく、鯨（強いものを身にまとして）で身を守る」という意味があったようです。

嫁入り道具を揃えるという習慣がほとんど消えてしまった今日では、「小紋三役」が以前ほど作られることが無くなり、高度な



型紙彫り職人内田勲さんの「あて場（仕事場）」にて

技の伝承にも大きな影響が出てきてしまっているのが、伊勢型紙の現状でもあります。

もうひとつのジャポニズム

美術品としての型紙

平成24年4月から10月にかけて、東京・京都・三重の三会場において「KATAGAMI style 世界が恋した日本のデザイン」という展覧会が開催されました。

今展は、型紙が19世紀から20世紀初頭にかけて、何千何万という単位で欧米にもたらされたという「知られざる」事実から発し、その意匠の斬新さから、現地の美術家やデザイナー、工芸家たちに、本来の使用目的を超えて広範囲に影響を与えた、いわば「もうひとつのジャポニズム」として紹介したものである。（展覧会図録案内文より）

「完成されたモノクロの世界」と表現される型紙の美しさが、美術品として欧米に受け入れられていたことは、今後の伊勢型紙の可能性を感じさせます。しかしその一方で、伊勢型紙が本来持つ、きもの型染め

の道具という、本来の役割から大きく離れて行ってしまうことにもつながります。

優れた文化や技術は、一朝一夕では生まれません。また、その技や文化をいったん手放してしまえば、それらを再び取り戻すのは容易ではなく、長い歳月を要します。伊勢型紙が手放されないよう、我々の努力が今必要とされています。



型彫り職人の太田茂さん

東京染小紋

染めの里落合 二葉苑、

明治に入り江戸の染物屋は、より清らかな水を求めて、神田紺屋町から清流豊かな「螢の名所」落合に移り住み、最盛期にはその数 300 軒に上りました。

神田上水と妙正寺川が落ち合うところから「落合」と名付けられたこの地では、昭和 30 年代半ばまで川筋の染工場の職人たちが、川のあちこちで水洗いをする風物詩が続きましたが、平成の現代では、ここ落合で染物屋を営んでいるのは 10 軒にも満たなくなっていました。

その中の 1 軒に 1920 年（大正 9 年）創業の二葉苑があります。二葉苑は、江戸更

紗（東京都伝統工芸品）・東京染小紋（国指定伝統工芸品）・東京手描友禅・江戸紅型・無地染と多岐にわたる江戸の染めを伝承しています。



【型紙】

東京染小紋は和紙を柿渋で加工した型紙を用います。まずはこの型紙を作ることが重要で、しなやかな強さが必要です。純正の和紙に柿渋を塗ることで、彫られた型紙が温度や湿度などで伸び縮みして動くことを防ぐと同時に、耐水性を増して強度を高めます。前述のように型紙は主に三重県の伊勢で製作されています。現在でも、江戸小紋に使われる型紙は伊勢から運ばれてきます。今回の型紙は、白子の老舗型紙問屋のものです。

【染付け】

彫られた型紙を使って、布地に染めていく工程です。約 6～7 メートルの一枚板の上に白生地を貼り付けます。ちょうど着尺の半反分の長さで染付けの作業をしていきます。

米糠を主とする防染用の糊を、生地に乗せた型紙の上からへらを使って均一になるように塗っていきます。この糊が生地について、後の工程で色が染まらない部分にな



ります。型紙は左右数十センチくらいですから、柄のつなぎ目はとくに慎重になります。ここでも職人の腕が問われます。これまでの作業は主に、「板場」と呼ばれる作業場で行われます。

柄となる部分に防染糊を塗り終わると、次に地色を染めていきます。染料を混ぜた色糊を、生地幅くらいの大きなへらで全体に塗っていきます。こちらの作業は、「引き場」と呼ばれる場所で作業されます。

【洗い】

地色を染め終わると、水洗いをして糊を落とします。昔は川で反物を流して、それが新宿落合の風物詩ともなっていました。地色の部分が色に染まり、糊の部分が染まらずに白く残って小紋独特の柄が出来上がります。洗いは「水元」で行われます。

【蒸し】

色を定着させるための工程です。蒸し器の中で加熱することで、生地を傷めずに色が繊維に入り込んでいきます。

以上の東京染小紋の工程で、蚕彩会の「東京染小紋の留型」が出来上がります。

純国産絹の生産及び東京染小紋、そして

伊勢型紙もまた、日本の重要な伝統工芸文化です。大切なことは、これらの伝統的な技法を互いに施し、付加し、重ね合って、その価値をより高めていくことです。

伝統とは、`統＝代々受け継がれて一続きとなっているもの、を次代に伝えていくことです。そして伝統は、人と人の手技と手仕事の集積によって成り立っています。きものを装う人もまた、人から人へ、親から子へ、孫へ、と受け継がれてきたきものに袖を通すことにより、その心を身にまとうのです。

われわれ蚕彩会も、この純国産絹 `いろいろ、で作られた「東京染小紋の留型」を多くの方に着ていただくことで、日本の伝統文化を次代へ伝えるという役割の一端を担いたいと思います。



蚕彩会の「東京染小紋の留型」モデルは羽場友香さん
(2012 全日本きもの装いの女王)

絹洋装肌着の開発で頑張る「秩父シルクの会」

秩父シルクの会 代表

有限会社HAC 松本 信孝

日本の美しい自然を守ろう！！

日本は森の国ともいわれ、また美しい里山にも恵まれています。森や里山が文化・生活を作る国です。日本は面積の約68%、3分の2が森。先進国の中では約74%のフィンランドが第1位で、日本は第2位。

山間地農業の代表である養蚕業は、美しい日本の自然体系の形成には欠かせない存在です。今、水源地である山や森を守ろうとする運動が起きていますが、人の生活との繋がり深い里山も同様に大切です。



我々は、秩父の瀨峡のササ繭^{いろうどり}「彩」を使用して新しい絹製品を開発しています。環境面から指摘したい重要なポイントは基本的に養蚕業は無農薬という事です。

「日本の絹」をポスト産業化時代の象徴に

現代の消費者は単なるモノではなく、そこに知識、感動、健康、癒し、安心などの価値を求めています。今後は、情動的価値や精神的価値に対する市場ニーズが拡大していくと思われ、その為にも、知恵、経験、技術に優れた人材のクリエイティビティ力が求められています。

貴重な人材と技術を生かして、伝統の中に育まれた日本古来の精神文明をベースにした「新しい価値の創造」こそ、今後の日本シルクの進む道だと思います。従来のコストパフォーマンス一辺倒から「土俵」の場を変える事です。

「着圧5本指靴下」は高額にもかかわらず、消費者から支持

従来の着圧靴下はほとんど合繊製なのに対し、ナノシルク（200ナノの空気層を持つ野蚕糸。ナノメートルは10億分の1m）

を使用した5本指靴下を作ってみました。この種の靴下は、静脈瘤を抑えるため太デニールのポリウレタンを使い、かなり強い圧力を加えるので、ムレや圧迫感が強いのです。そういうお客様の声を聞いて、従来難しいとされていた絹製着圧靴下の開発に挑戦し、合繊製の2倍程度の価格ですが、販売してみました。

恐らく靴下の中では最高に高い方（1足4600円）だと思います。ましてや、安物が横行するネットの世界では無謀ともいえる展開です。しかし、継続している内にインターネットの検索で徐々にお客様が増え、クチコミもあり結果的には高価格にも拘らず5万足以上の販売実績になり、お蔭さまで長期ロングセラー商品に育ちました。購入頂いたお客様からは70件ほどの多種多様なコメントが寄せられています。ここに、シルクの今後を占うヒントが隠されているように思います。

【お客様のコメント】を、あくまでも個人の感想ですが、2件ほど紹介させていただきます。

・父の日に、足のサイズ26～27センチくらいのLサイズを父にプレゼントしました。

父は今まで静脈瘤で2回の手術をしています。料理人なので、中腰での労働がかれこれ35年続き、とても苦しんでいました。これまでは病院で買ったサポーターの様なものを着けていたそうです。

シルクの靴下を1日履いて仕事をしたところ、膨らんでいた足の血管が、浮

き出なかったんだそうです。締め付け感がちょうど良いらしく、足の感覚もとても楽だったと言っていました。

これからは、記念日やお中元などにお菓子なんかよりこの靴下にして欲しいとリクエストが来ました。本当に、親孝行できたなって実感できた瞬間です。

・出会いに感謝。ナノシルクの靴下にお世話になり、5年近くなります。実は6年前、難病を患い一時は寝たきりの状態になり、脚のだるさ、痛み、重さに毎日悩まされ、憂鬱な毎日をすごしておりました。そんな時、娘がこの靴下を見つけ購入してくれました。

最初は、靴下ごときで何が変わるのだろうと、ちょっと失礼なことも思いましたが、毎日履いてみてびっくり。

脚が軽くなり、だんだん痛みやだるさも和らいできました。お陰で気持ちまで軽くなり、健康だった時の脚の感覚が戻り、気持ちも明るくなりました。一時、友達に勧められ別のメーカーの靴下も履きましたが、この靴下が一番だと思いました。これからも長いお付き合いになると思います。やっぱり絹の靴下は、肌触りも良く蒸れないし、最高ですね。

お肌をもてなす、彩（いろどり）「セリシン・ニット」

次に、秩父の緑色のササ繭「彩」を使った商品開発物語を紹介します。絹はフィブロイン（約75%）とセリシン（約25%）という二つの蛋白質で構成されています。

ところが、4000 年の歴史の中で利用されてきたのは柔らかいフィブロインのみでした（即ち、シルク＝フィブロイン）。

水仕事にもかかわらず、絹精練に携わる男女職人たちの「手」がいつも美しくみずみずしいのは何故か。なぜ絹に携わる人の肌は、しっとりつるつる白く美しいのだろう・・・その秘密はシルクに含まれる天然成分「セリシン」にありました。

ところが、セリシンパウダーはあっても、セリシンニットは市場にありません。針金のような硬い生糸は折り曲げが難しくて、ループの形成が困難だからです。

★ 顔や手ばかりでなく、大切な足も化粧しましょう！

先ず、この技術的突破口は「セリシン」に精通した人材と技術力です。

製糸、撚糸、ニッター各段階の「匠の技」の技術で、困難が克服されました。

そして足がつるつるになるとも云われるセリシンの「彩クリーン靴下」が開発されました。



硬い膠状の成分セリシンが 100% 含まれた、世界初のセリシン靴下の誕生です。

それは、清涼感のある和紙感覚のような薄い絹靴下。高温多湿の日本には最適です。

靴下に含まれている「セリシン」が着用中、熱や湿気で溶融して足の皮膚に浸透し、しっとりツルツルきれいにします。まるで「セリシン含有靴下」で足パックをしているようです。カサカサ足も、しっとりと滑らかになるのです。

和装の足袋との重ね履き用に、また、スポーツやビジネスのインナー用にと、薄く、丈を短く設計しました。

シャリ感があり、足袋の下に履いても夏はサラッと気持ち良く、いくら汗をかいても不思議にベタつくことはありません。スポーツで大量に汗をかいても、全く同様です。

有償モニター販売したところ、この蒸し暑く、社会的要請の節電意識も高い時期に、理想的なクールビズ靴下として大変好評でした。

【皆様の感想・評価】

- ・セリシンが凄い。ジョギングでシャツやトランクスは汗びっしょりなのに、靴下はいつもサラリ。
- ・全然べたつきもありませんし、暑苦しさもありません。いいものに出会えたと思います。
- ・すごく気持ちのいい履き心地です。蒸れずにサラサラしています。
- ・スポーツで大量に汗をかいてもベタつかず、当初のシャリ感はそのまますっきりで気持ちが良い。

「セリシン靴下」は、足の美容・清潔感と吸汗性のスポーツ効果に特徴があるようです。

1. 吸湿・吸水性と速乾性が良い。
2. 体内から出る臭いや分泌物の吸着性能に優れる。
3. 保湿・保温性が良い。
4. 涼感性があり、汗をかいてもベタつかず、常にサラッとしている。
5. 紫外線のカット率が高いようだ。
6. メラニン色素の増殖を抑制するチロシナーゼによる美白効果も期待できそう。
7. 美容成分セリシンが肌をきれいにする。(ツルツルしっとりと滑らかに)

「着て美容」しっとり、きれいになる

「フルボ酸シルクの肌着」

皮膚は年齢と共に水分率が減少し、みずみずしさを失い、乾燥肌に近づいてきます。皮膚は微細な毛細血管に覆われ、その末端のミクロ皮膚細胞にまで血液がいきわたり酸素と栄養素が供給されます。肌着はこの大切な皮膚活動を補完し、サポートするものでなければなりません。バイオ視点から特殊酵素「フルボ酸」と自然界の「ナノシルク」と「彩」のコラボで開発されたのが、フルボ酸シルク美容肌着です。シルク内に含まれたフルボ酸がお肌に潤いと活力を与えます。ミネラルや養分をたっぷり含み、美容効果の高いフルボ酸エキスがハリのある健康なお肌に貢献。ナノシルク肌着は保湿性と保温性とが相まって肌をしっとりス



ツキリと気持ち良くさせてくれます。そして、美肌、癒し効果を高めるのです。この美容肌着は薄くて嵩張らずフィットし、まるで第2の皮膚のようで着ている感じがしない。消臭性や抗菌性、抗酸化性能が抜群、しかも敏感肌の方にも安心・安全です。

「フルボ酸」は、古代の腐植土から抽出された天然エキスです。

それは、数千万年以上前の古生代の海草、藻類、魚介類などが分解、発酵、合成、還元を繰り返しながら堆積した腐植土に含まれている複合的な有機化合物なのです。

フルボ酸は多量のカルボキシル基等の官能基をもっており、粘土鉱物に吸着して安定化している。従って、ミネラル含有量が多く、ミネラルの宝庫と云われている。

ミネラルと結合したアミノ酸と共に肌の奥の細胞層へ浸透し、肌に潤いと活力を与えます。フルボ酸は分子量が小さく皮膚吸収性がよいので、ミネラル、アミノ酸、ビ

機能性シルクのデータ

【消臭性：耐久性】（財）日本紡績検査協会

試験項目：消臭性	材料	初回	洗濯 10 回後
		2 時間後の減少率	2 時間後の減少率
フルボ酸シルク	アンモニア	99%	96%
通常シルク	アンモニア	60.2%	—

★消臭性：洗濯 10 回後もアンモニア消臭能力は落ちず、耐久性がある。

タミンを、肌に容易に吸収させる「栄養素の運び屋」といわれています。フルボ酸をシルクに特殊バイオ結合させたのが「フルボ酸シルク」です。着用中にシルクに含有されたいたフルボ酸が徐々に皮膚に浸透し、皮膚細胞を活性化し潤いを与えるので「着る美容衣」とも云われています。

宇宙へのロマンから生れたイノベティブ・シルク

元々、水が貴重で洗濯不能な宇宙船内で長期間の連続着用 と心身の快適性が要求される宇宙船内被服用に開発されたのが最先端の機能性シルクです。「秩父の彩」に加え、野生昆虫の生命力が宿るナノシルクと特殊酵素フルボ酸 のバイオ能力、従来廃棄されてきたセリシン蛋白質 と三つの革新的テクノロジーの総合力でイノベティブ・シルクの開発を推進。多様な機能性（消臭、抗菌・抗ウイルス性、抗酸化性、保湿、保温性、抗菌性、紫外線・静電気カット）に優れ、しかも化学的処理を施していない天然素材なので安心・安全です。

機能性シルクのデータ

【抗菌性：菌数測定法】（財）日本紡績検査協会

菌種	菌数	フルボ酸シルク	通常シルク
M R S A (院内感染)	植菌数	2.6×10^4	1.5×10^4
M R S A (院内感染)	18 時間後の生菌数	<20	7.7×10^6
白癬菌 (水虫の菌)	植菌数	1.3×10^4	1.0×10^4
白癬菌 (水虫の菌)	18 時間後の生菌数	<200	4.0×10^5

「フルボ酸シルク」は院内感染「M R S A 菌」や水虫の原因「白癬菌」も殆ど死滅。

★ 現行 NASA 宇宙船内被服（化学処理や金属加工している）との決定的違いは、皮膚の安全性。頑健な宇宙飛行士に今通用しても、将来敏感肌の宇宙旅行者には問題有り。化学や金属一切無添加のシルクは皮膚の炎症が起きない。性能と安全性の両立がはかられてるのです。

肌着は、食と同じく、健康の基本

肌着は、生命維持に必要な皮膚活動をサポートする「第 2 の皮膚」という大事な役割を担っています。皮膚と一体になって、セカンドスキンは人間本来が持っている「自然の治癒力や免疫力」の発揮に役立ち、かつアンチエイジング機能も求められています。

宇宙飛行士用に開発されたもので 1 週間や 10 日程度の連続着用が可能。健康人ばかりでなく、病弱者や介護用にも適した天然素材ウェアです。従って、海外旅行、長期出張、長期療養や介護用、山登りやアウトドア、サッカーや野球等の激しいスポーツなどの様々な場面での利活用により、より快適な生活をお楽しみください。

平成 24 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 24 年度第 4 次審査会を平成 24 年 11 月 8 日（木）に開催しましたところ、今回は 6 者（うち、新規使用許諾申請が 2 者で新規製品が 4 品目、使用許諾されている者の製品の追加が 4 品目、生産数量の追加が 6 品目）から申請があり、審査委員会で審査した結果、6 者に対し 11 月 16 日（金）付けで純国産絹マークの使用許諾をいたしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規申請者) (株) マエノ 代表者名：前野和子 (担当者：前野和子) 茨城県石岡市石岡 2643-5 Tel :0299-24-5192 表示者登録番号 :172	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	30 反 30 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA やさか管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(新規申請者) (株) 本きもの松葉 代表者名：松葉洋和 (担当者：松葉洋和) 大阪府富田林市若松町 1-5-7 Tel :0721-25-4928 表示者登録番号 :173	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	35 反 15 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(数量の追加) (株) 川平屋 代表者名：伊藤正人 (担当者：伊藤正人) 愛知県豊田市桜町 2-34 Tel :0565-32-0902 表示者登録番号 :085	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	(数量の追加) 9 反 4 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(製品の追加) (株) 山正山崎 代表者名：山崎正平 (担当者：山崎正平) 愛知県豊橋市南栄町字空地 8-100 Tel :0532-47-1101 表示者登録番号 :105	(製品の追加) 後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	5 反 5 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(製品の追加) (株) 染織近藤 代表者名：近藤典博 (担当者：近藤典博) 岡山県岡山市北区丸の内 1-7-3 Tel :086-226-5298 表示者登録番号 :107	(製品の追加) 後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	20 反 10 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(生産数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 Tel :075-211-2531 表示者登録番号 :001	後染反物 (振袖) (紋意匠縮緬 ・紋綸子)	(数量の追加) 200 枚	繭生産 製糸 製織 染色	宮城県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 松浦絹織 自社
	(訪問着・付下) (変一越)	150 枚	繭生産 製糸 製織 染色	福島県・山形県内養蚕農家 松岡 (株) 河藤 (株) 自社
	(色無地) (紋意匠縮緬)	50 枚	繭生産 製糸 製織 染色	岩手県内養蚕農家 松岡 (株) 加賀ゲンゼ (株) 自社
	(訪問着) (紋意匠縮緬)	60 枚	繭生産 製糸 製織 染色	福島県・山形県内養蚕農家 松岡 (株) 美雲織物 (株) 自社

(連絡先)

〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階

担当：武居、宮下

TEL: 03-3214-1691、FAX:03-3214-1700

E-mail : 武居 : jsa-takei@chic.ocn.ne.jp

宮下 : jsa-miyashita@rhythm.ocn.ne.jp

玉繭を生産する蚕品種

(財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
所 長 井 上 元

2頭以上の蚕がつくった1個の繭は、玉繭と呼ばれています。この玉繭の糸、すなわち玉糸を使った独特の織物を製作している伝統的な地場産業があります。私たちは、これらの地場産業に資する目的で、玉繭をつくる新たな品種を開発することになりました。平成16年のことです。

表1 玉小石の飼育成績（平成22年晩秋蚕期）

2万頭収繭量	27.2kg
玉繭蚕率	35.2%
単繭の重さ	1.4g
単繭の糸の長さ	556m
単繭の糸の繊度	2.42d

いろいろと検討した結果、江戸時代からの在来の蚕品種である「小石丸」から育種することにしました。主な理由は糸質が優れていて、さらに宮中で飼育されていることもあってブランド力があることからです。

従来の小石丸から玉繭をつくりやすい系統を選抜し、これを小石丸A系統としました。一方、小石丸に糸量を増やす目的で他の品種を交雑し、それに小石丸を何回も戻し交雑して、小石丸B系統を作出しました。このA系統とB系統を交雑した品種は、玉繭を比較的高い割合でつくります。繭糸の長さも小石丸に比べて1.6倍ほどになって



図1 玉小石の飼育と山形族の上簇準備
(杉本養蚕所)



図2 山形族につくられた大きい玉繭と小さい単繭



図3 玉小石の繭の繰糸（加藤機業場）

います（表1）

実用に供し得ると判断されましたので、この交雑した品種を「玉小石」と命名し、財団法人大日本蚕糸会が商標登録いたしました。

福井県で牛首紬を製作・販売しておられる大門屋高橋弘直社長が、（株）マルシバ木下幸太郎社長と一緒に来所されたのは平成20年7月のことでした。お話は、最近の牛首紬は糸が弱くなっていて不満である、幻となってしまった昔のような糸が強い牛首紬をぜひ復元させたいとのことでした。そこで、この玉小石の繭をお見せしたところ、後日談ですが、高橋社長はその時にビビビ！と心が震えたと言われています。（シルクだより 40号）

早速、貞明皇后蚕糸記念研究助成を受けて、平成21年から現場での実用化試験が開始されました。



図4 糸の中性還元精練の実施状況（加藤機業場、高橋弘直氏提供）

玉繭を蚕につくらせるためには、上簇の際に小さな区画にわけられている回転簇は使えず山形簇を使います。福井県の農家杉本脩氏の養蚕所を改造して、山形簇用の棚を設置しました（図1）。小石丸系の品種ですから環境の影響を受けやすいので、飼育には気を遣いますが、杉本氏は長らく蚕種製造用の原種の飼育を手がけてこられたとのことであり、この類の蚕の飼育が上手で、玉小石の発育がとてもよく揃っておられるのに感心します。そのため、蚕の上簇が一斉となって、玉繭生産にはとても好ましいのです。

通常、1つの山形簇に550頭を振り込み、網をかけて蚕が簇外に移動しないようにします。この方法によって玉繭形成率が高く、蚕の尿で繭が汚れる確率が低くなります（図2）。



図5 中性還元精練の玉糸（高橋弘直氏提供）

繭の乾燥と繰糸についてもいろいろと検討され、繭を炭火で乾燥する方法が、糸の引きやすさからみて最も適切とされました。緯糸に使う玉繭の数と経糸に使う単繭の数のバランスが難しいのですが、今は玉繭 60 粒と単繭 80 粒からそれぞれ 1 本の糸が製糸されています（図 3）。

玉小石の糸はセリシン 2 の量が多くて精練抵抗性が高く、糸をこれまでのやり方である石鹼精練法で処理すると、織り上がった白生地がごわごわになってしまいました。高橋社長は蚕糸科学研究所のビーティングマシンできぬた打ちして布地を軟らかくしてもらい、その白生地を染色家に染めていただきましたが、なぜかピンク色が流れてしまい染まらないという問題に直面しました。

この問題に対処するために、新技術である中性還元精練法を初めて試みてみたところ、幸い糸は適切に精練されました（図 4、図 5）。

織り上がった白生地（図 6）はピンク色にも良く染まり、着物には光沢があり、軽



図6 牛首紬の織り（加藤機業場）



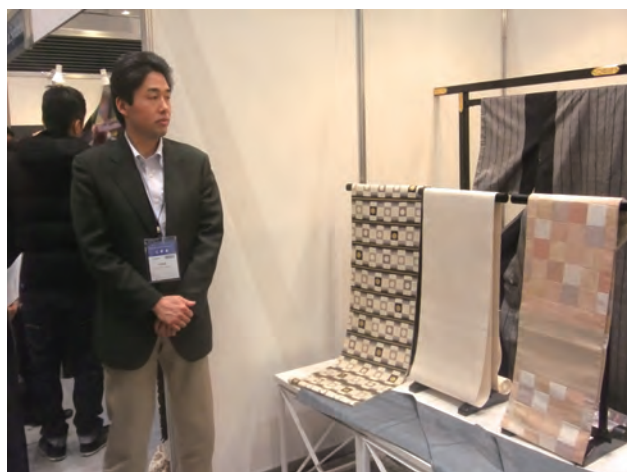
図7 ピンク色に染色された牛首紬（高橋弘直氏提供）

くてすそさばきも良いと評判は上々でした（図 7）。織り染めの試験中には染め直しも試みられましたが、糸が丈夫なものですから生地傷みは全く認められず、目的であった幻の牛首紬が復元されたと言っても過言ではないでしょう。

提携・支援センター活動日誌

No. 28 (H24.11.1 ～ H24.12.31)

年月日	活 動 内 容 等
24.11.2	シルク・サミット 2012 in 東京 ―蚕糸絹文化の今を考える― (東京都千代田区丸の内 東京會館)
24.11.6 ～ 24.11.7	群馬県 J A 前橋市の研修会への参加及び福島県真綿協会との打合せ (福島県)
24.11.8	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会との打合せ (東京・有楽町 蚕糸会館)
24.11.9 ～ 24.11.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループの全体会議への参加 (栃木県)
24.11.26	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (東京都)



ジャパНКリエーション 2013 には提携グループ会社も出展

『日本の絹展』（平成 24 年度第 9 回）を開催

—伝統工芸から創作デザインまで「染・織で綾なす」美と技の祭典—

社団法人日本絹業協会

当協会は、平成 24 年 10 月 18 日（木）～ 23 日（火）まで、高島屋東京店 8 階エクセレントルームに純国産絹コーナーを設置し「第 9 回日本の絹展～伝統工芸から創作デザインまで 染・織で綾なす 美と技の祭典～」を開催しました。

純国産絹製品や国内で製織、染色加工した伝統的工芸品から最新の創作デザインの絹製品まで幅広く展示し、特に養蚕、製糸、製織、染加工等の様子をビデオで紹介したり、カイコの飼育展示、アートフラワー教室を行いました。

また、生産履歴を表示した純国産絹マークについての説明パネルで国産繭・生糸で作られた希少価値のある純国産絹製品の紹

介を行いました。

純国産絹製品コーナー

純国産絹製品コーナーでは、（株）甲斐絹座（山梨県富士吉田）の甲斐絹のネクタイ・スカーフ・ストール・傘、西川産業（東京都中央区）の真綿布団、（株）あきやま（宮崎県綾町）の藍染、貝紫で染織したショール、近江真綿振興会（滋賀県米原市）の真綿布団・膝掛け、（株）小倉商店（茨城県結城市）の手紬結城紬・和装小物、（株）加藤萬（東京都中央区）の帯揚げ・風呂敷・半襟、日本蚕糸絹業開発協同組合（群馬県高崎市）のおくるみ・袱紗・紋付地・江戸小紋（藍田正雄）、富岡シルクブランド協





議会（群馬県富岡市）のネクタイ・スカーフ、(株)平田組紐（東京都豊島区）の帯締、福続織物（株）（福岡市西区）の和装小物、宮井（株）（京都市中央区）の風呂敷、(有)ミラノリブ（群馬県桐生市）の最新創作デザインのニット製品の展示・販売を行いました。

日本の絹コーナー

日本の絹コーナーでは、(株)絹工房（群馬県富岡市）のシルク化粧品・石鹼、染色工房鳴瀬（京都市右京区）の染色着尺・帯・和装小物、中島洋一（東京都中野区）の古典織物、COSSI（有）腰光産業（群馬県桐生市）のコート・紳士シャツ・婦人ブラウス・ショール、渡文（株）（京都市上京区）の帯・ネクタイ・座布団、自ら制作した絹製品の展示・即売を行ってもらいました。

実演コーナー

東京農工大学大学院蚕学研究室による、生きた蚕の飼育展示・世界の野蚕の紹介パ



ネル・蛍光・色素遺伝子を組み込んだ青色・赤色蛍光の繭の展示と、当協会による繰糸実演を行いました。深雪スタジオでは、アートフラワー教室が開催され、消費者の興味を引きました。

お客様からは、初めて蚕を見た。蚕が繭を作るのに感激した。生糸や真綿の作り方がやっと分かった。絹製品を作るのにこんなに手間がかかるのですかななどの声を頂きました。

今後、当協会としては絹製品製造者（製織、製編、染色等）が自ら製造した絹製品を展示販売する場で、多くの消費者に純国産絹製品の存在、製造技術伝承の重要性を知ってもらい、一方で日本の蚕糸・絹業の連携による日本の繭・生糸から作られた純国産絹製品（質の高い、物語性のある、生産履歴の明確なもの）の開発をさらに進め、消費者にリーズナブルな価格で提供できるようPR活動を活発化させたいと考えております。

1%が織りなす美

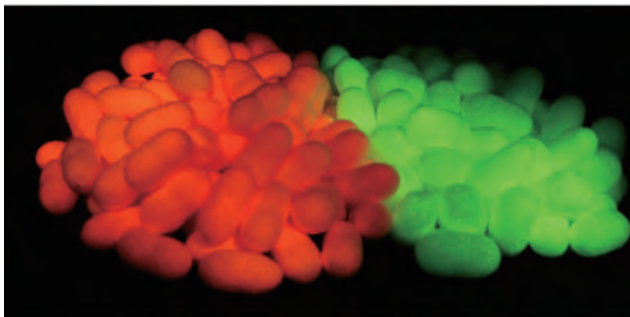
純国産「宝絹 takaraginu」展の概要

現在、国内で使われている絹製品全体に占める国産繭の割合は、わずか1%弱。

この現状を「1%の宝絹」と表現し、純国産絹の優良品性をPRし、ブランド化することで今後の消費増大を目指します。今回は特に日本の蚕種研究、養蚕・染織技術の質の高さを実演と最新のインタラクティブ画像等によりアピールし、さらに、ご来場の方々に楽しんでいただく参加型のアトラクションも展開します。現在、HPでご案内中。

(1) 世界に誇る日本の繭

光る繭、繭糸長の長い繭、細繊維度の繭、日本古来の繭他珍しい繭、優良繭を展示。



(2) 蚕糸・絹業提携グループの製品展示

今回は、純国産絹を使用したより良い物づくりに励む全国57グループが制作した作品の一部を展示させていただきます。より美しい装いを求め繭の新しい品種づくりから始めた希少な反物から、現代の生活に根ざしたニット、布帛製品、小物類まで幅広い製品を選びすぐって展示します。

(3) インタラクティブ映像

「純国産 宝絹～奇跡の糸ができるまで」と題して映像により蚕から製品までの工程

を最新の映像技術により紹介。画面に触れるとその触れ方によって映像が変化します。迫力ある画面を楽しんでいただけます。



(4) セミナー

「養蚕の歴史と文化ー日本の絹の歴史と文化をたどるー」(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所 井上元 所長を招き、養蚕の歴史や養蚕にまつわる伝説・伝承、養蚕の発展をお話いただきます。

(5) 実演型ワークショップ

伝統的な糸づくりと染織を紹介します。今回は、結城紬関係では真綿づくり、真綿糸紡ぎ、結城の機(地機)。岡谷市から足踏み繰糸機、米沢から紅花染めの職人さんに実演をしていただきます。

(6) 参加型ワークショップ

1月15日小正月に合わせて、ご来場者と近隣の小学生を対象に楽しんでいただくイベント「繭クラフト／繭玉飾り」を行います。さらに、実施研修として蚕糸科学研究所の指導による「一粒繰糸」を連日実施します。その他、「組みひもブレスレット」作りも実施の予定。

1%が織りなす美 純国産 宝絹 takaraginu 展

平成25年1月14日(月・祝)・15日(火)

10:00~20:00 ※15日は17:00まで

銀座三越9階 銀座テラス

近代日本の原点の多くが宿る日本の蚕糸・絹産業が、危機に瀕しています。
絹製品の生産・販売に携わる蚕糸・絹業の関係者は、今、たがいに手を取り合い、
国産の繭・生糸を使った魅力ある純国産絹製品を作る努力を重ねています。
本展ではその活動の一端をご紹介します。

展示①
世界に誇る日本の繭
日本の繭の歴史／繭が拓く未来

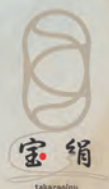
展示②
華麗なる宝絹
～純国産絹製品のある暮らし～

インタラクティブ映像
純国産《宝絹》～奇跡の糸ができるまで

セミナー
日本の養蚕の歴史と文化・
技術的発展をたどる

実演型ワークショップ
宝絹を支える手仕事の世界
●真綿づくり・真綿つむぎ・座繰り・染織・地機

参加型ワークショップ
繭や絹で手作り体験
●小正月の繭玉飾り・繭の動物ストラップ・
シルク組紐プレスレット制作・シルクハンカチ紅花染め
●繭から糸を取り出そう～一粒繰り体験



主催：蚕糸・絹業提携グループ 全国連絡協議会

後援：農林水産省 経済産業省 財団法人大日本蚕糸会

本展に関するお問い合わせ先：TEL. 03-5642-6527 (蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局)

スマートフォンサイトはこちらへ▶
www.takaraginu.com

宝絹 検索 



群馬県で「蚕糸絹業特別講演会」を開催

群馬県農政部蚕糸園芸課

蚕糸係長 岡 喜久男

絹は、高級で審美的な繊維であり、農業・工業・商業の各工程を経て最終的に製品が完成する。わが国の蚕糸絹業は長い歴史の中で、絹需要の消長とともに盛衰を繰り返してきたが、日本の近代化と経済発展に大きな役割を果たし、今日に至るまで脈々と固有の絹文化を息づかせてきた。また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が2014年の世界文化遺産候補としてユネスコに推薦されることになり、蚕糸絹業への関心が高まるとともに、一つの産業として継承することが多くの県民から望まれている。

このような状況下、養蚕農家、農業団体・製糸・絹業・流通の関係者で組織する「群馬の絹」活性化研究会主催による蚕糸絹業特別講演会が11月15日、群馬県庁ビクターセンターで開催された。



本稿では、高木賢大日本蚕糸会会頭の日本の蚕糸絹業を継承する意義、提携支援システムの更なる活性化に向けての講演が行われたので、その内容をご紹介します。

高木賢会頭の講演

今日は、『なぜ日本の蚕糸業を残さなければならないのか』というテーマをいただいたが、蚕糸絹業の百数十年の流れの中で、今日どういう状態なのか、今後、何を指すのかについて話していきたい。

1 蚕糸絹業と蚕糸絹文化の「危機」

現状として、蚕糸絹業と蚕糸絹文化の危機がありますが、蚕糸絹業と蚕糸絹文化の危機にいかに歯止めを掛けるか、そして



それを反転させるかが我々の志すことである。

生糸は、戦後、特に昭和 50 年代以降「需要のカベ」、「価格のカベ」という 2 つのカベに突き当たったと思う。戦前は、輝かしい歴史があった。東大名誉教授の石井寛治先生の話によりますと、生糸だけでなく、真珠、お茶も重要な輸出商品であったが、最終的に生糸が外貨獲得の 5 割以上を占める優等生であった。当時は、イタリアが一番の生糸輸出国であったが、日本はイタリアに追いつき追い越せと、蚕糸技術の研究・開発を進めて、コスト面のカベを破って日本が世界一の生糸輸出国にのし上がったということだった。

ところが、生糸はそもそも繊維ですから綿、羊毛などの繊維同士と競争しており、特に、ナイロンが発明され、これがシルクにとってライバルになった。それから戦後は生活様式が洋風化してきまして、きものだったのが、背広やスカートに代わり、生活スタイルも、畳から板張りの生活に変わっていった。

いずれにしても、きものが長い間日本の絹需要を生み出してきた。染めものなど、日本独特の文化が生まれ、美術品のように日本人に愛されてきた。しかし、活動性、着脱に難があって普段着として敬遠され、需要のかなりの部分が失われていったのも事実である。

一方、価格のカベもあり、外国産に市場を奪われている。外国産（主に中国）の生糸の価格は、日本の 3 分の 1 から 4 分の 1

である。さらに、機を織る人、染める人、すべての人件費が低いから、労働集約的な生糸生産や絹製品加工では価格差がより一層生じる。ですから、愛好家が絹製品を選ぶとしても、選んだもののほとんどが外国産である。絹需要が外国産に食われたことにより、わが国の蚕糸関連産業は圧迫され、蚕糸絹業が低迷、黄色信号が点るようになった。

これに関して、日本国政府は、安い外国産の商品が入らない様にするために、昭和 49 年、蚕糸事業団が生糸の輸入を一元化した（民間が輸入するのを規制した）。そうすると、日本の生糸が高く売れ、コストを回収できた。ただ、自由貿易が浸透する中で、引き続き安い絹織物が輸入されたことにより、日本の機屋さんは高い国産原料を買って製品を作る。製品は安い中国産の商品と肩を並べなくてはならない。利益が得られない、結果的に一元輸入はやめろとの声が高まり、平成 8 年に 20 年ほど続いた日本の生糸価格を維持するための制度は廃止され、その後は繭代の補填制度が始まった。しかし、その制度にも落とし穴があり、一次農産物は保護すると財政当局は認めたが、工業製品まで保護するには財政原則に反するとして、結局、繭については補助金が付いたが、製糸に関しては何も補助がなかったのも、どんどん関連産業が廃業していった。これは価格のカベが打ち破れなかったためである。

2 世界に冠たる日本の蚕糸絹文化

絹の染めや織りといった総合的な技術は、もともと中国から入ってきた。日本書紀によると、雄略天皇の后が蚕を飼っていたという記録があり、少なくとも1700年前には日本で蚕を飼っていたことになる。織る・染めるといった商売に成長したのは、応仁の乱が収まり、京都・西陣で専門の業者が誕生した500年ほど前で、きものは日本独自の文化である。現代の中国で、製糸・機織りといった分野は、日本と変わらない水準だが、デザインに関しては劣る。経済的に見ると、内外価格差が生じているので、そのまま勝負するわけにはいかないが、発想を変えてみると、きものの美しさ、手触りの良さ、日本の文化だという強い意識、改まったときに着るものはきものに勝るものはない。

例えば、茶道・華道、能、歌舞伎などに欠かせないのが“きもの”。彼らは、きものを着なければ商売にならない。また、需要復活の動きとして、琴や三味線でも絹糸を使う動きが見られ、絹工房で愛好家が様々な作品を生み出している。こういう方が増えることは、蚕糸業の強みである。変わらないモノに依拠しつつ、高度に発達した技術を活かして、これからの蚕糸絹業と蚕糸絹文化の発展を考えるべきである。

ところで、文化と文明の違いとは何か。司馬遼太郎によれば、文明とはどこにでも普及が可能なもの。一方、その国や地域でなければ生まれないのが文化である。つまり、文明とは、数学や機械といったどこへ行っても通用するものである。民族、地域

に固有の生活、ものづくり等の様式、そのグループのみに共有されているアイデンティティ保持に不可欠なものが文化である。

蚕糸絹業は、正しく日本文化の柱の一つ。この土着の文化を正当に評価し、これを守り、育てていかなければならない。特に、養蚕から始まって、製糸・染め・織までが一体になっているのが、日本の蚕糸絹文化の特徴である。イタリア・フランスは蚕糸文化はあったが、今は製品しか扱っていない。美しいスカーフなどは作れるが、これをフランス文化と言っていいのだろうか？優秀なデザイナーはいるが、それだけで「お国柄」と言っていいのだろうか？

これはどういうことかと云うと、製糸業・養蚕業に携わっている方は気づかれないだろうが、第三者から見ると、非常に重要な産業である。昨年、一昨年と群馬県内の絹卸業者が桑の植樹イベントを開催したが、きものを販売している小売業者が多数参加されていた。小売業者達も自分達が販売し



ているモノのルーツが知りたいと思っているので、このイベントにも参加していた。また、碓氷製糸にも、沢山の流通業者が見学を訪れている。大日本蚕糸会も、国産の絹製品の展示会を開催しているが、蚕や座繰り器を用意しておく大変評判が良い。また、西陣織会館の純国産絹製品コーナーでカイコを飼っていることも好評である。つまり、養蚕・製糸がなければ足がない文化になってしまい、頭から足まで揃っている日本の蚕糸絹文化は、世界に誇るべきものである。

一方、地域の養蚕の保護に関連してのグローバリズムの流れに注意しなければならない。世界の良い所を生かすのが、グローバリズムではないかと思うが、時には、貿易等で暴走する場合もある。例えば、2008年のリーマンショックでは、アメリカでの問題が日本だけでなく、世界中に大きな影響を与えた。ギリシャで起こった金融危機もすぐさま日本を襲う。グローバリズムというのは、世界をつなぐ上では良いのだが、自分はしっかりしていても、相手の悪い影響をすぐに受けてしまうリスクが生じる。良いことも悪いこともみな同じに影響を受けてしまう。これに対して我々は、グローバリズムに全て身を預けるのではなく、自分の「軸」をしっかり持たなければならない時代にきている。

例えば、先日終了した、中国共産党大会では、幹部は皆、背広とネクタイを着用していた。また、ミャンマーでも、幹部は背広・ネクタイ着用である。背広とネクタイを着

用していれば、世界で共通する服装。正に、グローバリズムの象徴である。一方、きものは、日本独自の服装である。言葉を発しなくても、海外できものを着ていると、「ああ、日本人だ」と言われる。銀座の泉二さんは、どこへ行くにもきものを着ていくそうだ。きものを着るだけで自己紹介がいらぬ、日本固有の蚕糸絹文化を、今一度、見直すべきであると言っておられる。

3 これからの展望

蚕糸絹文化を今以上に発展させていくには、常に自覚的に進化させていかなくてはならない。具体的には、純国産絹製品の開発で、それが解決の道になればと思う。国産繭の生産量は下がってきているが、それを逆手に取り、高い技術力で希少価値を付けて売り出す戦略を展開する。もちろん、個々の工程の技術を高めることも大切であるが、それらを総合的に高めることも求められる。原料だけでなく、工程、製品と一貫通貫で勝負をすることが大切だ。現在、農政では6次産業化が主流になってきている。今までは、品種改良などをして農産物を作り、良いものを作ればいだろうという風潮だったが、ただ農産物を作るだけでモノは売れない。農産物を加工し、販売することで利益を生み出す。昨年、6次産業化が閣議決定されたが、私としては、少し遅い気がする。

つまり、原料だけで勝負するのは、時代に合っていないということだ。1次産業・2次産業・3次産業が合わさった最終製品

で、市場に売り出す時代に来ている。6次産業化の中で、純国産の絹製品を作り出すことが重要になっている。種（カイコの卵）から製品まで、一本の道の様につながっていく商品を作り上げることが大切である。しかし、一つ一つの過程もおろそかにできない。それぞれの段階での担い手育成も大切になってくる。かつては、糸を紡ぐ、布を織るといった工程ごとの組合があったが、今は数が少なくなっているため、縦の関係での接触の密度が濃くなってきている。流通関係者も、糸はどのようにして作っているのか、糸がどのように織られているのかといった工程に興味を持つようになってきている。相互に縦の関係をすることも大切であるが、担い手の育成も更に大切である。日本は、染めの技術は世界一であるが、いかに後継者を育てるかが重要になってきている。

平成26年度以降、国による支援はなくなる。それに対してどうするべきか、これからの大きな現実問題である。56の提携グループが活動しているが、その人達にどのように支援していくべきか、大きな困難が予想される。現在、提携グループのヒアリング調査をしていて、問題点を整理し、平成26年度以降、どのような支援が可能かを考えていきたい。

群馬県が推進している「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、今や世界遺産登録まであと一歩のところまできている。このことは、絹に関わる人々には、大変喜ばしいことである。大日本蚕糸会においても支援していきたい。「遺産」ではなく、生きている人



がこれからも続けられるような産業にしていかななくてはならない。動態保存というのは、大変素晴らしい考え方である。

しかし、第3者がこれらの文化の価値を認めても、肝心の当事者がそれに関して自覚しなければ何もならない。今、蚕糸業に関わっている人達に、もっと蚕糸絹文化の大切さを自覚してほしいと願う。例えば富岡製糸場と碓氷製糸の見学であるが、富岡製糸場の機械自体は動いていない。シャトルバスを動かして、碓氷製糸の見学ツアーを企画するとか、伊香保・碓氷温泉といった場所にも足を伸ばすツアーを企画すれば、群馬県全体が見られ、群馬県のイメージ向上にもつながるのではないだろうか。富岡製糸場が世界遺産に登録された場合のことを考えて、今から様々なアイデアを出していく必要があるだろう。大きな絵を描いておいて、蚕糸絹文化を盛り上げていくことが良いと思う。

いずれにしても、蚕糸絹業の維持発展は、難しく課題も多いことは事実であるが、総合力で乗り越えやり遂げること、実行することが大切である。

「実りのフェスティバル」(第51回)に参加して

社団法人日本絹業協会

当協会は、平成24年11月10日(土)から11日(日)の2日間、財団法人農林漁業振興会が主催する第51回農林水産まつり「実りのフェスティバル」(於：日比谷公園)に参加し純国産絹製品PRコーナーを設置しました。

純国産絹製品PRコーナーでは、多くの消費者に純国産絹製品を知ってもらい普及させるために、蚕糸・絹業提携システム、純国産絹マークの説明パネルをはじめ、カイコの飼育、上州座繰りの実演、繭クラフトの作成指導を行い、また、絹の良さを知ってもらうために羽二重のハギレ、繭等を参集者に配布しました。

特に、繭クラフトの作成指導については、横浜シルク博物館の協力を得て、繭クラフトの作成指導員を2名派遣してもらいました。このコーナーには一日中子供達が集まり、大好評でした。

会場を訪れたお客様からは、「繭の緒口はどうして見つけるのですか」「座繰り器を回してもよろしいですか」「この蚕は小石丸ですか」と養蚕・製糸に関する興味のある質問が次々と寄せられ、関心の高さがうかがわれました。

展示品等内容

展示品	提供者	内 容
カイコ	蚕業技術研究所	5 齢のカイコ (ひたち×にしき)
パネル等	大日本蚕糸会・日本絹業協会	蚕の一生、蚕の一生 (模型)、純国産絹マーク、提携システムについて、シルクロードなど
繭・ハギレ (羽二重)	絹小沢 (株)、横浜シルク博物館	白い繭、ハギレ (絹小沢)、染色した繭 (横浜シルク博物館)



国内産地情報

絹織物産地の概況（11月）

丹後、十日町、五泉、福井は増産 生糸価格は引き続き上昇

<原糸>

中国の原料生糸価格は、11月に入っても値上がりしており、先行きも強含みで推移しそうである。織物の動きが鈍いため原料手当は慎重な対応となっている。採算は一層悪化している。在庫はおおむね適正な状態である。

<白生地>

- ・縮緬＝丹後の11月の生産は、前年比103%で、無地は90%となったが、紋生地は106%で増となった。稼動日数は22日で前年より1日増であった。
- ・長浜の生産は、前年比84%であった。稼動日数は17日で前年より1日減であった。
- ・五泉は、生産反数が2.5%の増であった。
- ・福島は、受注減少により生産、操業ともに若干落ちている。
- ・福井の生産は、広幅羽二重は7%の増で在庫はたまり気味、小幅羽二重は99%で輸入品との価格格差がある。
- ・石川は、相変わらず小口商いが続いている。
- ・群馬・埼玉は、群馬は工場の生産停止により前年比0%、埼玉が前年比95%となった。

<先染織物>

- ・西陣は、販売不振による減産のほか出機の老齢化による自然減もあり、出機の確保の動きもある。売れ行きは、産地問屋の地方売出しでは振袖用価格訴求品のみが動いたようだ。採算は圧迫されている。
- ・博多は、紋八寸名古屋帯、平地八寸名古屋帯、小袋が増産、他の四寸紋袋帯、男帯は減産となり、全体で23%減となった。
- ・十日町は、売れ行きは訪問着、留袖、紬緋が好調であった。生産は紬緋、振袖、留袖が前年を上回り、全体では前年の9%増となった。
- ・米沢の生産は呉服関連の荷動きが悪く受注に応じた生産となっている。服地は内地物で多品種小ロットの状況が続き減少傾向も継続。輸出物は円高が続き荷動きが少ない状況で厳しさに変化はない。採算は今後一段と厳しくなると思われる。
- ・山梨は、服地は生産量が少なく売れ行きも厳しい状況が続いている。ネクタイは、百貨店向け等に多少の動きはあるが全体としては生産量が少なく、売行き、採算ともに良くない。
- ・西陣のネクタイは、来春夏物のピークも過ぎて稼働状況は低下している。

（11/1～30の概要）

＊（社）日本生糸問屋協会「月報」24.12.13、第767号による。

海外シルク情報

中国

中国、国家備蓄制度による 在庫生糸の一般売り渡しを実施へ

中国での国内生糸価格は、昨年9月末に国家備蓄制度による生糸買上げを実施したことから昨年後半には300元（3,900円）/kg台を回復、本年の年初から上昇に転じ、3月から5月には320元（4,160円）/kg台となり、その後、夏場にかけて330元（4,290円）/kg台へ徐々に値を上げ、10月に至って340元（4,420円）/kg台を突破する状況になってきている。

このこともあって、中国政府（商務部・繭絲綢弁公室）は10月19日付けをもって国家備蓄制度による在庫生糸の一部を市中に一般放出（売渡し）する公告を全国に通知した。

この概要は次のとおりである。

○売渡しの目的

国家備蓄制度による買上げ在庫生糸の品質の安全を確保するため、政府は公平な一般競争入札により、従来の在庫生糸を今般、市中に売り渡すことを決定した。

○売渡しの基本事項

1. 売渡者・・・中国繭絲綢弁公室
2. 売渡代理機関・・・中机国際招標公司（北京）
3. 売渡数量・・・約581トン（9,600俵）（入札荷口数96）
4. 売渡対象生糸・・・2007年に買上保有していた生糸で、当時の商品検驗局検査による原検定書付で、その後、再検査したものでなく江蘇省呉江市の指定倉庫に保管されている生糸
5. 売渡日程

売渡入札参加有資格業者の審査・公表・・・10月29～31日
競争入札の実施・・・11月6日 午前10時より

以上のような市中への生糸放出が公告・発表され、当初は晩秋蚕期の蚕期中での売渡し公表を懸念してか国内生糸価格は多少下げたものの10月下旬には360円（4,680円）／kg台へと上昇している。

（注）円換算は1元＝13円。

ウズベキスタン

発展するウズベキスタンのシルク産業

ウズベキスタン軽工業省が伝えるところによれば、現在、年間2.2～2.5万トンの繭生産量があり、この原料繭から年間2,100～2,200トン（35,000～36,700俵）の生糸を生産している。

平均生糸量歩合は、約9パーセント程度であり、生糸に加工できないシルク副産物は一部国内で加工・利用されるものの、その大半は他国へ割安で輸出されている。

また、同国のシルク産業には、36のシルク関係生産企業があり、この中の7つは製糸企業、5つは絹織物製造企業であり、この他に日本・韓国・中国の合弁企業のシルク副産物加工会社が1社、ナマンガン州にウズベキスタンと日本の合弁企業があり、これは、年間生産量150トンの優良生糸を消化し競争力のある絹製品を生産している。

また、タシケントとフェルガナには、ウズベキスタンと米国の合弁会社があり、同社は年間80トンの絹撚糸と年間200トンの生糸を製造している。

このように国内シルク製造企業は36社、この他に他国との合弁企業3社があり、計39社のシルク関係企業が存在し、豊富な原料繭があることから活況を呈している。

ただ、ウズベキスタンシルク産業にとって当面、最大の課題は、現在輸出に回している大量なシルク副産物を国内で有効に加工・利用し、高付加価値化することである。

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
○純国産（宝絹 takaraginu）展 — 1%が織りなす美—	日本の近代化と共に歩んだ絹産業の歴史や「日本の絹」の魅力を紹介し、蛍光タンパク質を使用して育てた貴重な「光る繭」などを展示。さらに、特殊な繭により作られた希少な着物から、より日常に根ざしたニット、小物類まで、純国産絹製品を幅広く展示します。 また、蚕の歴史と文化を紹介するセミナーや染色の実演、繭玉飾り作りの体験など、来場者が参加できるコーナーのほか、蚕が絹糸を作り出す過程を映像で紹介するなど、親子連れでも楽しみながら学ぶことができます。	平成 25 年 1 月 14 日(月・祝) ～15 日(火) 14 日 午前 10:00～ 午後 8:00 15 日 午前 10:00～ 午後 5:00 入場料 無料	東京・銀座三越 9 F 銀座テラス 中央区銀座 4-6-16 Tel 03-3562-1111 主 催 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 後 援 農林水産省 経済産業省 財団法人 大日本蚕糸会
○講習会 「手作り真綿の講習会」	古くから日本の養蚕農家では生糸の製造に適していない玉繭や出殻繭などくず繭を使って真綿を作ってきました。 真綿は軽くて保温が良いため、防寒用やふとんの中綿等に使われたり、紬糸の原料となり、家族の着物などに大切に利用され、また現在では高級紬織物の大切な原料となっております。 シルク博物館では、この真綿作りの貴重な技術を次世代に伝えるため、講習会を開催します。	平成 25 年 1 月 23 日(水) 1 月 24 日(木) 1 月 25 日(金) 午前 10:00～ 午後 3:00 ・ 成人対象 ・ 各回 7 名 (先着順) ・ 参加費 500 円 ・ 詳細はお問い合わせください。	・ 開催場所 シルク博物館 ・ 横浜市中区山下町 1 番地 Tel 045-641-0841 ・ 主催 シルク博物館 ・ 後援 一般財団法人 日本真綿協会

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 24 年 11 月 16 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、黒留袖、喪服)、胴裏
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、後染帯地
4	株式会社 丸上	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
5	株式会社 坂本屋	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
6	有限会社 平原	後染反物(色無地、黒紋付)
7	株式会社 信盛堂	後染反物(色無地、黒紋付)
8	株式会社 きものアイ	後染反物(色無地)
9	株式会社 上庵	後染反物(色無地、黒紋付)
10	有限会社 樹	後染反物(色無地、黒紋付)
11	株式会社 銀座もとじ	後染反物(作家作品)、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯)、後染帯地、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯地
13	有限会社 織匠小平	先染帯地
15	株式会社 結華	後染反物(色無地、黒紋付)
16	株式会社 絹回廊	後染反物(色無地)
17	有限会社 琴路屋	後染反物(色無地、黒紋付)
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地
19	丸善本店	後染反物(色無地、黒紋付)
20	呉服のささき	後染反物(色無地、黒紋付)
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、灰汁浸加工、トルマリ ン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付 地)、白生地(世紀二一)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が 5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗)
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	先染帯地(袋帯、名古屋帯)、先染反物(御召類)、後染反 物、先染帯地(袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、 腹巻、手袋、靴下))
28	株式会社 丸万中尾	後染反物(江戸小紋、友禅、色無地)、後染帯地
29	株式会社 むらかね	後染反物(色無地、黒紋付)
30	株式会社 高島屋	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、 黒留袖)、長襦袢地
31	株式会社 さが美	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)
32	有限会社 まるけい	後染反物(色無地、黒紋付)
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物(色無地、黒紋付)
34	株式会社 小いけ	後染反物(色無地、黒紋付、小紋)

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
35	株式会社 伊と幸	後染反物(色無地)、後染帯地、白生地(表地)、胴裏
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地
37	株式会社 和幸	後染反物(色無地、黒紋付)
38	株式会社 榎屋高尾	先染帯地(袋帯)
39	株式会社 つるや	後染反物(色無地、黒紋付)
40	株式会社 越後屋	後染反物(色無地、黒紋付)
41	株式会社 小倉商店	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)、白生地(結城紬)
42	染織家 柳崇	先染反物、先染帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房 山村	先染反物、先染帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、先染帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、先染帯地
47	株式会社 龍工房	帯締
48	からん工房	先染反物(紋紬、緋)、先染帯地
49	たわた工房	先染反物、先染帯地
50	山音 株式会社	後染反物(色無地(変三越、駒紬))
51	やまと 株式会社	後染反物
53	桜井 株式会社	先染帯地
54	有栖川織物 有限会社	先染帯地
55	太田和 株式会社	結城紬(先染反物、先染帯地)
56	株式会社 岩田	先染帯地
57	有限会社 神原呉服店	後染反物(色無地、黒紋付)
58	浅山織物 株式会社	先染帯地
59	株式会社 やまと	先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)
60	田中種 株式会社	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅)、後染帯地(九寸名古屋帯)
61	株式会社 京扇	後染反物(色無地)、胴裏(パールトーン加工)
62	株式会社 なごみや	後染反物(色無地、黒紋付)
63	丸池藤井 株式会社	後染反物(色無地)、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物(帯揚げ、半衿)
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏
66	千切屋 株式会社	後染反物(訪問着、付下)、後染帯地
67	荒川 株式会社	和装小物(帯締、帯揚げ)
68	第一衣料 株式会社	後染反物(色無地)
69	株式会社 紅輪	後染反物(色無地)
70	装いの道 株式会社	白生地(帯地、表地)、胴裏(トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま200、新小石丸)
71	株式会社 高橋屋	胴裏(灰汁浸加工)

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
72	おお又 株式会社	胴裏（灰汁浸加工）
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏（ぐんま200（灰汁浸加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏（パールトーン加工）
75	株式会社 とみひろ	胴裏（酵素精練）
76	株式会社 細安	胴裏（酵素精練）
77	京和きもの 株式会社	胴裏（酵素精練）
78	株式会社 まるため	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社 小川屋	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工）
80	株式会社 エムラ	胴裏（酵素精練）
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏（酵素精練）
82	株式会社 牛島屋	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
83	株式会社 谷呉服店	胴裏（酵素精練）
84	株式会社 登美屋	胴裏（パールトーン加工）
85	株式会社 川平屋	胴裏（パールトーン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	胴裏（パールトーン加工）
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
88	西陣織工業組合	マフラー
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井紋 株式会社	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スーツ地、ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
96	株式会社 北尾織物匠	先染帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地、付下）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの）、 絹九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	胴裏（酵素精練）、先染反物（結城紬）
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地、江戸小紋）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地、小紋、付下、訪問着）、後染帯地
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	胴裏（酵素精練）
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（表地用（紋意匠））
128	大門屋	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚げ、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	ネクタイ、禪
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	帯締
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井 株式会社	風呂敷
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
149	株式会社 甲斐絹座	ネクタイ、服飾品(スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ
150	有限会社 さいとう呉服店	後染反物(色無地、付下)
151	株式会社 西松屋	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
152	株式会社 西尾呉服店	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
153	勝山織物 株式会社	先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)
154	有限会社 石川	後染反物(型友禅、羽二重色無地)、先染反物(ジャガード織)
155	東朋 株式会社	ストール
156	那覇伝統織物事業協同組合	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	株式会社 ふじや	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	後染反物(小紋)
159	株式会社 J S	寝具寝装品(ふとん、ふとんカバー)、洋装品(スーツ地、コート地、スカート地、服飾品(スカーフ、ストール、シャツ))
160	株式会社 マルシバ	裏地(胴裏)、和装小物(袱紗)
161	株式会社 みつわ	後染反物(小紋)
162	福続織物株式会社	先染帯地(本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	株式会社 大谷屋	白生地(表地)
164	株式会社 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	白生地(表地)
165	株式会社 染織こうげい	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	寝具寝装品(布団、膝かけ)
167	株式会社 にしむら	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	有限会社 きものおおにし	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	株式会社 コノエ	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
170	株式会社 つたや	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	株式会社 京呉服小糸伸輔の店	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	株式会社 マエノ	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	株式会社 本きもの松葉	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市子鍵水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5-1	0287-36-0949
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399

名 称	〒	住 所	電 話
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設（結城市伝統工芸館）	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」（つるばみ）	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇（田勇機業株式会社）	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (ｼﾞｬﾊﾟﾝｼﾙｸｾﾝﾀｰ)
(社) 日本生糸間屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafs.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工芸学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市立野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/silk>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	41
(2) 養蚕農家数の推移	42
(3) 繭生産数量の推移	43
(4) 平成23年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	44
(5) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量	45
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移(2009～2011年)	46
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	47
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	48
(9) 国産生糸価格実態	49
(10) 絹需給の推移(生糸量換算試算)	51
(11) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)	52
(12) 製糸工場の原料繭需給	53
(13) 製糸工場の操業状況	54
(14) 生糸在庫数量の内訳	55
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	56
(16) 生糸の原産国別輸入数量	57
(17) 絹糸の原産国別輸入数量	58
(18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	59
(19) 絹織物生産数量	60
(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	61
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	62

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	63
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	64
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	65
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	66
(5) 中国のシルク類(生糸・絹糸・絹織物)の輸出状況	67
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	68
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	69
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	70
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2010年)	71
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	72
(11) ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移	73

－資料・国内－

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収穫量 Cocoon Production	1戸当 収穫量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 23年	621	220	354	0.7	7	50	34.7	10,419
前年対比 (%) 2011/10	82.1	83.0	100.9	77.8	100.0	102.0	96.7	89.7

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。

・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。

・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。

平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

・平成23年以降の養蚕業は(財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		621	555	357	526
対前年比 2011/10(%)		82.1	85.4	72.3	82.6

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002	880	330	231	320	373	166	134	167
2003	775	313	210	253	374	167	140	144
2004	675	256	176	243	369	158	128	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2006	505	209	122	173	375	172	143	157
2007	433	175	110	148	371	166	152	150
2008	382	147	96	139	374	158	157	162
2009	327	124	85	118	357	152	131	156
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	354	171	137	144
対前年比 2011/10(%)	83.0	88.8	81.7	77.6	100.9	103.6	113.2	93.5
構成比(%)	100.0	43.2	22.3	34.5				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4) 平成23年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2011.

(単位:戸、%)

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	1	0	－	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	16	106.7	23	19	82.6	23	22	95.7	27	23	85.2
宮城県	21	16	76.2	17	16	94.1	21	17	81.0	28	22	78.6
山形県	10	9	90.0	9	7	77.8	9	8	88.9	11	10	90.9
福島県	71	51	71.8	65	44	67.7	76	56	73.7	83	60	72.3
茨城県	18	24	133.3	20	23	115.0	20	21	105.0	36	27	75.0
栃木県	37	33	89.2	25	24	96.0	38	31	81.6	40	33	82.5
群馬県	283	239	84.5	216	139	64.4	275	227	82.5	314	261	83.1
埼玉県	63	53	84.1	48	39	81.3	59	51	86.4	68	57	83.8
千葉県	10	7	70.0	7	5	71.4	8	8	100.0	11	8	72.7
東京都	6	5	83.3	0	0	－	5	4	80.0	7	6	85.7
神奈川県	9	0	－	10	0	－	10	0	－	12	0	－
新潟県	1	10	1000.0	1	2	200.0	1	0	－	1	10	1000.0
山梨県	24	24	100.0	7	9	128.6	21	20	95.2	27	26	96.3
長野県	28	23	82.1	19	17	89.5	25	21	92.6	31	26	83.9
岐阜県	18	14	77.8	8	0	－	17	17	84.0	21	18	85.7
愛知県	1	1	100.0	0	1	－	0	0	－	1	1	100.0
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	0	－	1	1	100.0
愛媛県	17	15	88.2	15	10	66.7	18	12	66.7	19	17	89.5
高知県	4	4	100.0	0	0	－	3	2	66.7	5	4	80.0
熊本県	8	5	62.5	2	0	－	4	3	75.0	8	5	62.5
宮崎県	4	2	50.0	0	0	－	2	2	100.0	4	2	50.0
鹿児島県	0	3	300.0	0	0	－	0	3	300.0	0	3	300.0
全国計	650	555	85.4	494	357	72.3	637	526	82.6	756	621	82.1

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures in 2011.

(単位: kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	—	—	—	137.4	156.3	113.8%	144.7	119.3	82.4%	282.1	275.6	97.7%
岩手県	2,017.6	1,977.5	98.0%	2,783.7	2,318.9	83.3%	3,049.7	2,474.0	81.1%	7,851.0	6,770.4	86.2%
宮城県	2,755.5	2,127.1	77.2%	2,335.9	2,341.8	100.3%	3,046.5	2,248.6	73.8%	8,137.9	6,717.5	82.5%
山形県	1,649.3	1,315.2	79.7%	761.7	767.4	100.7%	1,254.4	1,638.3	130.6%	3,665.4	3,720.9	101.5%
福島県	12,488.4	11,519.5	92.2%	11,946.4	8,972.5	75.1%	16,645.2	13,617.0	81.8%	41,080.0	34,109.0	83.0%
茨城県	3,672.0	4,486.0	122.2%	2,653.6	2,323.2	87.5%	3,181.4	3,028.4	95.2%	9,507.0	9,837.6	103.5%
栃木県	12,003.5	11,488.4	95.7%	4,465.3	5,259.7	117.8%	14,350.8	9,370.2	65.3%	30,819.6	26,118.3	84.7%
群馬県	49,138.1	42,178.0	85.8%	23,357.1	18,729.3	80.2%	38,871.7	28,938.0	74.4%	111,366.9	89,845.3	80.7%
埼玉県	9,018.9	7,692.5	85.3%	4,968.6	3,308.7	66.6%	6,903.5	6,061.7	87.8%	20,891.0	17,062.9	81.7%
千葉県	1,263.6	1,168.6	92.5%	671.7	569.4	84.8%	1,310.9	1,113.4	84.9%	3,246.2	2,851.4	87.8%
東京都	543.1	386.0	71.1%	—	—	—	342.3	163.3	47.7%	885.4	549.3	62.0%
神奈川県	884.8	—	—	584.8	—	—	637.9	—	—	2107.5	—	—
山梨県	3,851.7	3,665.7	95.2%	1,170.0	805.7	68.9%	2,508.8	2,233.2	89.0%	7,530.5	6,704.6	89.0%
長野県	3,016.2	2,714.3	90.0%	2,212.9	1,765.0	79.8%	2,533.0	2,440.2	96.3%	7,762.1	6,919.5	89.1%
新潟県	—	186.4	—	46.6	54.3	116.5%	51.9	—	—	98.5	240.7	244.4%
福井県	—	62.4	—	—	21.2	—	—	23.0	—	—	106.6	—
岐阜県	1,351.3	1,086.0	80.4%	232.8	—	—	687.4	614.1	89.3%	2,271.5	1,700.1	74.8%
愛知県	120.9	64.1	53.0%	—	—	—	—	—	—	120.9	64.1	53.0%
兵庫県	83.5	42.0	50.3%	80.0	35.0	43.8%	66.0	—	—	229.5	77.0	33.6%
京都府	102.4	111.4	108.8%	97.5	—	—	40.6	93.3	229.8%	240.5	204.7	85.1%
愛媛県	2,172.3	1,992.9	91.7%	1,183.1	1,350.5	114.1%	1,671.9	1,482.3	88.7%	5,027.3	4,825.7	96.0%
高知県	280.4	228.4	81.5%	—	—	—	128.1	86.7	67.7%	408.5	315.1	77.1%
熊本県	543.4	431.9	79.5%	—	—	—	271.6	91.8	33.8%	815.0	523.7	64.3%
宮崎県	136.6	115.2	84.3%	—	—	—	62.7	67.3	107.3%	199.3	182.5	91.6%
鹿児島県	—	1.5	—	—	—	—	—	6.6	—	—	8.1	—
全国計	107,093.5	95,041.0	88.7%	59,689.1	48,778.9	81.7%	97,761.0	75,910.7	77.6%	264,543.6	219,730.6	83.1%

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2009～2011年)

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item Year	2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号	4,803	34.9	3,420	26.2	2,729	24.6
錦秋 × 鐘和	2,400	17.4	2,400	18.4	2,100	19.0
春嶺1号 × 鐘月1号	1,565	11.4	2,072	15.9	1,419	12.8
ぐんま 200	1,622	11.8	1,627	12.5	1,388	12.5
春嶺 × 鐘月	900	6.5	1,001	7.7	1,002	9.0
かいりょう × あけぼの	442	3.2	487	3.7	435	3.9
新小石丸	317	2.3	355	2.7	396	3.6
芙蓉 × つくばね	300	2.2	300	2.3	180	1.6
上州絹星	204	1.5	51	0.4	86	0.8
世紀二一	218	1.6	191	1.5	132	1.2
緑繭1号	129	0.9	56	0.4	62	0.6
ブラチナボーイ	71	0.5	73	0.6	66	0.6
朝日 × 東海	100	0.7			50	0.5
朝日 × つくばね	100	0.7	100	0.8	80	0.7
ぐんま 黄金	117	0.8	152	1.2	76	0.7
改良小石丸	87	0.6	87	0.7	78	0.7
白繭細1号	60	0.4	115	0.9	77	0.7
小石丸	73	0.5	75	0.6	72	0.6
蚕太	54	0.4	26	0.2		
蚕技研11号	61	0.4	53	0.4	52	0.5
分離白1号 × 支106号	9	0.1	8	0.1		
白繭細2号	20	0.1			2	0.0
新極青白号	9	0.1	14	0.1		
極細1号	21	0.2	30	0.2	5	0.0
玉小石	33	0.2	16	0.1	22	0.2
鷹山	29	0.2	25	0.2	20	0.2
支21号 × 四川3眠	6	0.0	4	0.0	6	0.1
又昔 × 中515号	6	0.0	5	0.0		
青熟 × 支21号	6	0.0	6	0.0	8	0.1
諸桂 × 紹興	4	0.0	4	0.0	1	0.0
黄白	5	0.0	5	0.0	15	0.1
青熟 × 中515号	2	0.0	3	0.0	2	0.0
鬼縮 × 中515号	4	0.0	1	0.0	1	0.0
松岡姫			200	1.5	300	2.7
いろど			39	0.3	134	1.2
鐘光 × 黄玉			35	0.3	30	0.3
太平 × 長安			7	0.1	13	0.1
支108号 × 青熟	2	0.0	5	0.0	7	0.1
はく × ぎん					22	0.2
秋光 × 竜白					5	0.0
秋花 × 銀嶺					3	0.0
中515号 × 又昔					2	0.0
琉球多蚕繭					2	0.0
合計 Total	13,779	100.0	13,048	100.0	11,080	100.0

資料：(財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
2011	731	4,248	—	10,926	2,456	17,526	308	8,546	3,642
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010	814	12,207	—	13,815	2,935	16,307	324	9,000	6,299
2011	654	8,541	—	9,907	2,348	15,540	433	7,725	5,945
2011 - 6	63	760	—	890	2,932	1,731	30	762	667
7	59	489	—	608	2,872	1,489	29	780	457
8	53	547	—	590	2,882	1,498	47	706	443
9	61	420	—	932	2,431	1,340	45	610	568
10	56	765	—	790	2,462	1,165	78	515	530
11	64	550	—	820	2,256	1,202	47	656	469
12	52	717	—	569	2,456	1,001	32	636	508
2012 1	42	1,185	—	992	2,691	1,590	39	804	291
2	47	481	—	761	2,458	758	13	242	513
3	48	870	—	970	2,467	1,143	37	782	555
4	56	0	—	491	2,032	1,092	25	564	506
5	53	1,757	—	1,494	2,348	1,531	11	668	438
6	49	460	—	631	2,226	1,316	40	692	479
7	36	637	—	627	2,272	1,544	38	605	483
8	24	903	—	626	2,573	1,499	18	575	423
9	33	891	—	1,035	2,162	1,365	6	630	462

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	生糸 Raw Silk					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
暦年 Calendar Year	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	729	1	188	250	89	204
生糸年度						
Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	—	205	358	208	242
2010	814	1	176	273	55	309
2011	652	1	164	239	117	134
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23
8	53	1	9	24	6	13
9	59	—	15	23	6	17
10	56	—	23	14	12	7
11	64	—	6	37	10	12
12	52	—	19	10	16	7
2012 - 1	42	—	7	9	16	10
2	47	—	15	10	17	5
3	48	—	6	33	3	6
4	56	—	17	19	11	9
5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7

資料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g

(Unit: Yen/k g)

Year & Month \ Size		21d	27d	31d	平均 Average
2005		3, 870	3, 173	3, 107	3, 383
2006		4, 617	4, 267	4, 080	4, 321
2007		3, 961	3, 625	3, 573	3, 720
2008		4, 266	3, 754	3, 489	3, 836
2009		4, 171	3, 598	3, 136	3, 635
2010		4, 152	3, 891	3, 564	3, 869
2011		5, 261	4, 923	5, 260	5, 148
2010 —	11	4, 338	4, 149	3, 912	4, 143
	12	4, 329	4, 336	4, 002	4, 222
2011 —	1	4, 267	4, 287	4, 127	4, 220
	2	4, 763	4, 737	4, 967	4, 967
	3	4, 800	4, 619	4, 556	4, 658
	4	4, 942	4, 593	4, 865	4, 800
	5	5, 188	4, 699	4, 853	4, 913
	6	5, 200	5, 035	4, 750	4, 995
	7	5, 600	5, 109	5, 327	5, 345
	8	5, 602	5, 106	5, 586	5, 431
	9	5, 778	5, 237	6, 078	5, 698
	10	5, 455	5, 282	5, 872	5, 536
	11	5, 733	5, 138	5, 657	5, 509
	12	5, 800	5, 257	6, 043	5, 700
2012 —	1	5, 799	4, 682	6, 119	5, 533
	2	5, 788	5, 181	6, 125	5, 698
	3	5, 859	5, 006	6, 177	5, 681
	4	5, 907	5, 391	5, 693	5, 664
	5	5, 190	4, 973	5, 300	5, 154
	6	5, 713	5, 076	5, 167	5, 319
	7	5, 700	5, 088	5, 208	5, 332
	8	5, 600	5, 214	5, 233	5, 349
	9	5, 278	4, 931	5, 267	5, 159

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source: Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸B類(21デニール3A)

Standard Raw Silk:21d 3A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
9月中	9月	元	341.25	337.80	342.53	340.43
		円	4,436	4,391	4,453	4,426
	10月	元	341.85	339.90	343.43	341.85
		円	4,444	4,419	4,465	4,444
	11月	元	342.53	340.80	344.10	342.53
		円	4,453	4,430	4,473	4,453
	12月	元	344.03	341.93	345.75	344.18
		円	4,472	4,445	4,495	4,474
	1月	元	344.78	342.23	346.80	345.15
		円	4,482	4,449	4,508	4,487
	3月	元	348.15	340.43	351.00	349.35
		円	4,526	4,426	4,563	4,542
	4月	元	349.95	348.15	351.98	350.63
		円	4,549	4,526	4,576	4,558
	5月	元	349.95	348.15	351.53	350.40
		円	4,549	4,526	4,570	4,555
	7月	元	348.45	347.40	348.98	348.45
		円	4,530	4,516	4,537	4,530

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
10月中	10月	元	344.48	343.80	347.70	346.95
		円	4,478	4,469	4,520	4,510
	11月	元	346.20	345.00	348.08	346.88
		円	4,501	4,485	4,525	4,509
	12月	元	349.43	348.60	351.53	350.85
		円	4,543	4,532	4,570	4,561
	1月	元	350.70	349.95	353.10	352.95
		円	4,559	4,549	4,590	4,588
	3月	元	355.73	354.00	361.58	360.08
		円	4,624	4,602	4,700	4,681
	4月	元	357.30	356.03	361.43	359.93
		円	4,645	4,628	4,699	4,679
	5月	元	354.83	354.15	357.00	356.70
		円	4,613	4,604	4,641	4,637
	7月	元	349.43	349.28	349.95	349.80
		円	4,543	4,541	4,549	4,547
	9月	元	352.43	352.28	355.95	355.80
		円	4,582	4,580	4,627	4,625

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(10) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09 (%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source："Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(11) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

（単位：千俵）

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes		26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

(12) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month		項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	
暦 年 Calendar Year					
	2005	806	830	589	
	2006	600	645	541	
	2007	548	581	505	
	2008	393	518	378	
	2009	308	385	313	
	2010	240	299	263	
	2011	190	208	237	
生糸年度 Silk Year					
	2005	837	693	390	
	2006	562	599	349	
	2007	502	583	266	
	2008	406	452	224	
	2009	324	337	209	
	2010	260	281	188	
	2011	202	224	144	
2011	— 3	0	22	233	
	4	1	24	210	
	5	0	22	188	
	6	46	21	213	
	7	36	20	229	
	8	34	20	243	
	9	13	21	235	
	10	41	20	256	
	11	19	21	254	
	12	0	17	237	
2012	— 1	4	15	226	
	2	0	16	210	
	3	0	16	194	
	4	0	19	168	
	5	9	18	144	
	6	37	16	165	
	7	24	12	177	
	8	39	7	201	
	9	3	11	193	

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		7	112	90	80	266	90
2009		7	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2011		7	110	57	52	252	65
2010 —	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	50	22	56
	8	7	110	53	48	20	64
	9	7	110	64	58	21	65
	10	7	110	57	52	21	66
	11	7	110	55	50	21	66
	12	7	110	57	52	21	65
2012 —	1	7	110	51	46	18	63
	2	7	110	48	44	19	63
	3	7	110	47	43	19	63
	4	7	110	53	48	22	57
	5	7	110	60	55	21	56
	6	7	110	50	45	22	56
	7	7	110	38	35	14	57
	8	7	110	24	22	20	52
	9	7	110	29	26	21	52

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～）。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010. 3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010. 4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(14) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫					農畜産業振興機構		
		Stock in markets					Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場	生糸市場外	生糸輸出	受 入	引 渡	在庫数量
		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	数 量	数 量	Ending Stocks
暦 年									
Calendar Year									
2005		8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006		9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007		8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008		4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009		4,055	355	10	3,162	528			
2010		3,329	319	0	2,354	656			
2011		2,456	288	0	1,651	517			
生糸年度 (6～5)									
Silk Year									
2005		9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006		8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007		5,281	305	15	4,241	720			
2008		4,205	376	15	3,266	515			
2009		3,661	358	0	2,795	508			
2010		2,999	285	0	2,014	700			
2011		2,348	304	0	1,481	583			
2011 — 1		3,309	292	0	2,388	629			
2		3,148	284	0	2,219	645			
3		3,563	288	0	2,511	764			
4		3,154	288	0	2,182	684			
5		2,999	285	0	2,014	700			
6		2,932	213	0	2,110	609			
7		2,872	229	0	2,095	548			
8		2,882	243	0	2,168	471			
9		2,431	281	0	1,729	421			
10		2,462	273	0	1,664	525			
11		2,256	282	0	1,559	415			
12		2,456	288	0	1,651	520			
2012 — 1		2,691	277	0	1,825	586			
2		2,458	271	0	1,694	493			
3		2,467	273	0	1,696	498			
4		2,032	284	0	1,380	368			
5		2,348	304	0	1,481	563			
6		2,226	299	0	1,344	538			
7		2,272	283	0	1,474	515			
8		2,573	280	0	1,656	637			
9		2,162	267	0	1,698	197			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(15) 蚕糸関係品目別輸入状況（平成19年～24年9月）
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2007～Sept. 2012)

	単位 Unit	平成24年(2012)		平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	23年/22年 2011/10 (%)
		(9月) Sept.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	891	7,245	9,323	12,209	12,085	15,242	12,858	76.4
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,365	11,838	17,526	16,306	16,647	22,636	19,439	107.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	11	—	—	82	149	317	333	0.0
繭 Cocoon	kg	1,000	4,500	4,050	13,158	9,800	4,000	13,750	30.8
具 綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	—	29,071	28,660	—
ペ ニ ー Peigne	kg	—	—	—	—	35,331	2,770	6,336	—
く ず 繭 Waste Cocoon	kg	1,830	4,897	10,885	9,395	33,450	23,770	17,184	115.9
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	—	202,220	242,082	—
その他の 絹くず Other Silk Waste	kg	4,433	88,717	98,732	134,852	103,122	193,125	238,507	73.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	4,433	88,717	109,617	144,247	171,903	450,956	532,769	76.0
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	41,407	354,537	394,920	451,219	335,710	526,662	608,270	87.5
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	12,336	115,818	118,404	104,374	97,554	143,585	117,265	113.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	629,826	5,561,408	8,545,903	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	94.6

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country 年 月 Year & Month		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦 年 Calendar Year							
2008		15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	—	122 (—)	—
2009		12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	0 (—)	41 (—)	—
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	32	—
2011		9,323 (45)	7,170 (20)	2,136 (25)	0	15	—
生糸年度 Silk Year							
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	—
2009		12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	—
2010		12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	—
2011		8,602 (17)	6,846	1,754 (17)	1	39	—
2011	— 2	593	521	72	—	—	—
	3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	—	6	—
	4	372	316	56	—	—	—
	5	1,280 (11)	1,082	198	—	—	—
	6	760 (7)	416	344 (7)	—	—	—
	7	489 (10)	389	100 (10)	—	—	—
	8	547	292	254	—	—	—
	9	420	420	—	—	—	—
	10	765	491	272	—	3	—
	11	550	325	225	—	—	—
	12	717	697	20	—	0	—
	2012	— 1	1,185	1,149	36	—	—
2		481	289	193	—	—	—
3		931	870	61	—	—	—
4		0	0	0	—	—	—
5		1,757	1,508	249	—	—	—
6		459	360	99	—	—	—
7		672	562	110	—	—	—
8		903	817	86	—	—	—
9		891	750	141	—	—	—

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量 Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	212
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,722	79
生糸年度 Silk Year									
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2010		14,831	—	9,202	4,279	8	—	1,203	141
2011		15,540	—	9,060	4,364	44	—	1,713	303
2010 —	8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
	9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
	10	1,254	—	754	366	—	—	132	2
	11	1,453	—	790	526	13	—	81	56
	12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011 —	1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
	2	982	—	559	312	—	—	110	—
	3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
	4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	3
	5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
	6	1,731	—	906	628	—	—	197	1
	7	1,489	—	910	432	0	—	155	1
	8	1,498	—	730	432	0	—	225	—
	9	1,340	—	745	543	1	—	51	—
	10	1,165	—	542	309	—	—	243	70
	11	1,202	—	672	297	—	—	232	—
	12	1,001	—	692	219	—	—	28	61
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	82
	2	758	—	378	216	1	—	162	1
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	25	—	103	24
	5	1,531	—	1,001	328	15	—	124	63
	6	1,316	—	727	515	26	—	75	27
	7	1,554	—	907	488	—	—	97	62
	8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
	9	1,365	—	773	506	1	—	73	12

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, K g /円

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	5,481	4,469	1,790	5,492	8,717	4,707	1,722	5,398	4,574	4,402
2011 - 3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726
8	292	4,570	254	4,964	730	4,922	255	5,594	763	4,710
9	421	4,483	0	0	745	4,665	51	5,991	543	4,792
10	491	4,174	272	5,310	542	4,735	283	5,833	309	4,655
11	325	4,199	225	5,209	673	4,432	232	6,027	297	4,681
12	697	4,469	20	5,492	692	4,309	28	6,313	219	4,560
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	92	5,958	353	4,345
2	289	4,024	193	5,297	378	4,137	162	5,560	216	4,264
3	870	4,296	61	5,241	747	4,323	113	6,187	281	4,731
4	0	0	0	0	662	4,372	103	6,065	326	4,887
5	1,508	4,311	249	5,220	1,001	4,304	124	6,048	328	4,625
6	360	4,347	99	5,005	727	4,370	75	5,876	515	4,703
7	526	4,220	110	5,013	907	4,502	97	5,930	488	4,591
8	817	4,130	86	5,151	897	4,433	41	5,850	561	4,402
9	750	4,212	141	5,353	773	4,315	73	6,167	506	4,320

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(19) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,319	3,941	2,486	184	1,257	4,396	1,796	2,590	1,982
2011 — 4	998	381	240	18	122	425	174	250	192
5	846	323	204	15	103	360	147	212	162
6	925	353	223	17	113	394	161	232	178
7	843	322	203	15	103	359	147	211	162
8	790	302	190	14	96	336	137	198	152
9	800	305	193	14	98	341	139	201	154
10	833	318	201	15	102	355	145	209	160
11	892	341	215	16	109	380	155	224	171
12	902	345	217	16	110	384	157	226	173
2012 — 1	801	365	199	16	151	255	143	112	181
2	818	373	204	16	154	260	146	115	185
3	829	378	206	17	156	263	147	116	187
4	829	378	206	17	156	263	147	116	187
5	863	393	215	17	162	274	154	121	195
6	883	403	220	18	166	281	157	124	200
7	863	393	215	17	162	274	154	121	195
8	743	339	185	15	140	236	132	104	168
9	716	326	178	14	135	228	127	100	162

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	695,143	80.9
2010 — 5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,180	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,927	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	6,027	94.7	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,898	88.3	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,507	83.6	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	6,096	89.3	62,562	88.8
6	911	82.6	41,785	94.6	6,072	79.2	60,832	84.0
7	834	82.2	43,509	98.5	5,399	72.9	53,800	84.2
8	779	86.5	34,386	86.3	6,064	82.6	49,057	81.2
9	788	81.9	38,639	82.6	5,394	74.0	61,501	94.7
10	821	82.5	39,116	84.3	5,589	92.5	51,586	66.1
11	879	87.5	37,346	82.5	5,929	84.0	62,567	90.8
12	889	92.0	39,833	88.5	5,376	90.3	52,433	77.0
2012 — 1	801	98.4	29,890	91.3	4,787	87.8	51,823	83.7
2	818	93.7	38,352	90.5	5,632	93.4	65,046	107.4
3	829	91.9	37,766	90.4	5,306	76.9	62,163	110.8
4	829	83.8	42,234	94.3	5,614	86.3	57,688	96.1
5	863	102.7	33,283	83.8	6,109	100.2	56,873	90.9
6	883	96.9	43,214	103.4	5,335	87.9	47,616	78.3
7	863	103.5	39,999	91.9	5,967	110.5	47,268	88.0
8	743	95.0	31,797	92.0	4,052	67.0	45,892	94.0
9	716	91.0	39,579	114.0	5,051	94.0	44,900	73.0

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は(社)日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.0	4,273	▲ 4.2	2,425	3.1	1,100	2.9
2010 - 10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 0.3	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 8.1	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	0.5	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 5.0	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.2	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 19.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 2.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	2.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,046	▲ 2.1	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1
8	282,008	▲ 4.1	8,921	1.8	456	159.0	2,693	▲ 9.6	2,059	▲ 2.8	943	▲ 0.5
9	270,010	▲ 1.9	8,709	▲ 5.0	221	▲ 44.4	2,966	▲ 3.7	1,895	▲ 1.6	863	▲ 5.1
10	285,605	▲ 0.4	13,099	2.3	625	161.8	5,023	▲ 0.2	2,790	4.8	1,201	▲ 7.4
11	273,428	▲ 3.2	13,230	5.6	490	122.6	5,026	0.1	2,649	10.0	1,280	▲ 1.1
12	328,080	0.5	13,786	7.7	54	▲ 21.5	5,382	3.3	2,547	10.9	1,644	15.9
2012 - 1	283,124	▲ 2.3	13,148	4.3	271	125.6	5,496	0.9	2,675	5.5	1,132	▲ 0.2
2	267,855	2.3	8,829	0.5	380	34.9	3,713	▲ 3.3	1,543	4.5	733	0.4
3	303,841	3.4	12,167	10.2	148	▲ 67.1	5,512	10.2	2,065	13.2	878	14.9
4	301,948	2.6	11,687	4.3	95	2.9	4,399	5.4	2,434	1.1	934	5.0
5	287,911	4.0	11,592	▲ 2.5	124	150.1	3,801	▲ 7.2	2,771	▲ 0.7	1,072	▲ 6.6
6	269,810	1.6	11,208	▲ 1.4	169	49.2	3,627	0.4	2,760	▲ 5.4	1,169	▲ 4.5
7	283,295	1.7	11,920	▲ 1.5	239	▲ 15.4	3,923	▲ 3.7	3,161	0.7	1,286	▲ 2.8
8	286,036	1.8	8,627	▲ 3.0	381	▲ 17.1	2,685	0.0	2,062	0.5	960	1.9
9	266,705	▲ 0.9	8,436	▲ 2.9	188	▲ 15.8	2,900	▲ 1.9	1,876	▲ 1.0	837	▲ 2.5

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing, clothing, shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

一 資料・海外一

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2009	2010	対前年比 2010/09	2009	2010	対前年比 2010/09
山 西	Shanxi	4,046	5,894	146	266	182	68
河 北	Hebei	1,200	1,500	125	—	—	—
江 蘇	Jiangsu	73,175	77,399	106	17,800	16,000	90
浙 江	Zhejiang	45,600	57,000	125	15,000	14,436	96
安 徽	Anhui	24,800	25,000	101	5,200	6,438	124
江 西	Jiangxi	7,602	7,000	92	2,900	3,591	124
山 東	Shandong	23,900	22,000	92	5,800	7,510	129
河 南	Henan	10,101	7,500	74	2,100	103	5
湖 北	Hubei	17,150	10,600	62	555	446	80
湖 南	Hunan	3,182	2,452	77	104	197	189
広 東	Guangdong	53,321	39,300	74	1,722	1,711	99
広 西	Guangxi	172,900	214,000	124	16,237	18,164	112
重 慶	Chongqing	17,311	17,200	99	4,200	4,000	95
四 川	Sichuan	70,000	71,000	101	14,900	14,900	100
貴 州	Guizhou	2,751	1,460	53	105	134	128
雲 南	Yunnan	30,230	40,000	132	2,237	2,138	96
陝 西	Shaanxi	17,200	17,600	102	3,263	3,664	112
甘 肅	Gansu	253	304	120	—	—	—
寧 夏	Ningxia	126	126	100	—	—	—
新 疆	Xinjiang	450	580	129	—	—	—
内 蒙 古	Inner Mongolia	—	—	—	66	64	97
合 計	Total	575,299	617,915	107	92,455	95,778	104

製糸工場数（件） Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比 10/09(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	125
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	146
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai						0.0	0.0						
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	106
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	125
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	101
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	92
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	92
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	74
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	77
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	74
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	124
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	99
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	101
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	53
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	132
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	102
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	107

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2011年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	4,114,330	77.39	209,055	99.41
2 ルーマニア	Romania	728,603	143.27	38,055	188.12
3 ベトナム	Vietnam	624,467	90.79	30,709	111.16
4 韓国	South Korea	466,392	88.91	24,529	115.70
5 日本	Japan	402,960	83.31	22,568	111.16
6 イタリア	Italy	312,007	89.72	17,274	116.30
7 バングラデッシュ	Bangladesh	88,325	52.99	4,362	70.01
8 ミャンマー	Myanmar	82,273	104.43	4,205	138.86
9 ブラジル	Brazil	44,245	100.00	2,354	100.00
10 パキスタン	Pakistan	40,709	47.66	1,967	62.88
11 その他	Others	217,448	70.29	11,646	97.37
合計	Total	7,121,759	83.70	366,724	108.23

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2012年1月～10月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	4,049,924	115.48	187,171	102.73
2 ベトナム	Vietnam	616,182	133.03	29,199	124.37
3 ルーマニア	Romania	545,784	97.16	26,414	89.03
4 日本	Japan	392,559	115.87	20,781	108.25
5 韓国	South Korea	341,780	96.96	16,672	79.03
6 イタリア	Italy	256,658	99.13	12,834	88.72
7 バングラデッシュ	Bangladesh	97,355	135.52	4,423	121.26
8 ミャンマー	Myanmar	81,017	120.70	3,862	109.94
9 ブラジル	Brazil	33,530	76.85	1,807	77.94
10 ブルガリア	Bulgaria	31,400	200.56	1,557	184.15
11 その他	Others	130,387	63.45	6,456	59.31
合計	Total	6,576,576	110.97	311,177	99.96

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	869,361	51.22	44,614	65.61
2 日本	Japan	653,654	103.35	37,423	139.39
3 イタリア	Italy	531,110	99.37	30,546	133.79
4 パキスタン	Pakistan	269,373	56.51	14,021	71.53
5 ドイツ	Germany	200,792	99.30	10,260	136.17
6 韓国	South Korea	182,339	96.21	9,758	124.35
7 タイ	Thailand	135,954	90.15	7,874	123.34
8 インドネシア	Indonesia	94,087	108.31	4,865	144.63
9 マレーシア	Malaysia	33,138	60.02	1,702	76.47
10 ベトナム	Vietnam	31,400	95.95	1,603	106.34
11 その他	Others	182,519	58.21	8,392	87.15
合計	Total	3,183,727	72.82	171,058	97.32

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 日本	Japan	545,580	97.73	29,215	90.43
2 イタリア	India	317,582	68.71	16,734	62.57
3 インド	Italy	314,403	41.78	14,721	37.28
4 ドイツ	Germany	220,817	132.93	11,824	141.72
5 パキスタン	Pakistan	209,246	102.15	10,213	92.46
6 韓国	South Korea	149,678	100.38	7,448	92.03
7 タイ	Thailand	90,023	71.30	4,604	62.45
8 インドネシア	Indonesia	67,614	90.03	3,291	82.46
9 ベトナム	Vietnam	40,575	130.09	1,944	120.74
10 香港	Hong Kong	19,057	328.57	0,760	294.15
11 その他	Others	167,224	115.51	9,333	121.83
合計	Total	2,141,799	80.03	110,087	74.93

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 パキスタン	Pakistan	49,142,622	93.07	162,071	121.71
2 イタリア	Italy	33,520,431	67.64	185,559	106.99
3 インド	India	32,139,948	56.67	144,785	74.37
4 韓国	South Korea	14,649,985	85.76	101,387	112.05
5 香港	Hong Kong	13,900,523	89.56	83,993	119.62
6 日本	Japan	10,567,943	90.72	46,593	116.75
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	7,508,512	88.65	37,343	119.20
8 マレーシア	Malaysia	6,361,626	81.22	37,976	99.90
9 米国	United States	6,247,924	103.71	44,198	125.30
10 チュニジア	Tunisia	6,132,107	115.84	11,006	140.29
11 その他	Others	37,726,968	87.92	203,149	114.01
合計	Total	217,898,589	79.57	1,058,060	106.60

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 パキスタン	Pakistan	42,930,650	125.86	152,465	135.43
2 イタリア	Italy	25,414,291	86.47	143,094	87.77
3 インド	India	18,764,638	73.46	87,250	75.95
4 香港	Hong Kong	11,825,761	103.92	85,275	109.63
5 韓国	South Korea	9,642,155	81.96	64,217	90.95
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emir	8,148,675	129.02	51,838	167.48
7 日本	Japan	7,836,913	87.24	35,988	91.59
8 マレーシア	Malaysia	6,208,079	116.32	34,473	94.01
9 米国	United States	4,658,200	89.16	32,828	100.97
10 トルコ	Turkey	3,180,132	72.05	17,889	77.77
11 その他	Others	25,559,769	79.79	134,520	87.08
合計	Total	164,169,263	94.08	839,837	98.14

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額（億元） Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率（%） Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1996年	9,249.4	6,893.3	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	26.8	16.3	21.2	39.7

資料：中国統計年鑑(2012)

Source: China Statistical Yearbook 2012

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名 目 賃 金 Average Wage				実 質 賃 金 Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	14.4	13.4	19.9	15.4	8.6	7.7	13.9	9.6

中国統計年鑑2012 Source: China Statistical Yearbook 2012

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469
採掘業 Mining	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230
製造業 Manufacturing	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723
建築業 Construction	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486
金融業 Financial Intermediation	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109
不動産業 Real Estate	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169
教育 Education	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062
合 計 Total	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799

(出所)中国統計年鑑2012

Source: China Statistical Yearbook 2012

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
製造業 Manufactur	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645
合 計 Total	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387
年別人民元yuan/円yenレート	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	12.75

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2011年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省（区）別 Region			年平均賃金(単位： 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	75,482	962,396	180.58
天	津	Tianjin	55,658	709,640	133.16
河	北	Hebei	35,309	450,190	84.47
山	西	Shanxi	39,230	500,183	93.85
内	蒙	Inner Mongolia	41,118	524,255	98.37
遼	寧	Liaoning	38,154	486,464	91.28
吉	林	Jilin	33,610	428,528	80.41
黒	龍	Heilongjiang	31,302	399,101	74.89
上	海	Shanghai	75,591	963,785	180.84
江	蘇	Jiangsu	45,487	579,959	108.82
浙	江	Zhejiang	45,162	575,816	108.05
安	徽	Anhui	39,352	501,738	94.15
福	建	Fujian	38,588	491,997	92.32
江	西	Jiangxi	33,239	423,797	79.52
山	東	Shandong	37,618	479,630	90.00
河	南	Henan	33,634	428,834	80.47
湖	北	Hubei	36,128	460,632	86.43
湖	南	Hunan	34,586	440,972	82.74
広	東	Guangdong	45,060	574,515	107.80
広	西	Guangxi	33,032	421,158	79.03
海	南	Hainan	36,244	462,111	86.71
重	慶	Chongqing	39,430	502,733	94.33
四	川	Sichuan	37,330	475,958	89.31
貴	州	Guizhou	36,102	460,301	86.37
雲	南	Yunnan	34,004	433,551	81.35
西	蔵	Tibet	49,464	630,666	118.34
陝	西	Shaanxi	38,143	486,323	91.25
甘	肅	Gansu	32,092	409,173	76.78
青	海	Qinghai	41,370	527,468	98.97
寧	夏	Ningxia	42,703	544,463	102.16
新	疆	Xinjiang	38,238	487,535	91.48
全国平均		Average	41,799	532,937	100.00

(出所) 中国統計年鑑2012 Source: China Statistical Yearbook 2012

(注) 1元=12.75円 Note: 1yuan=12.75yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,038 (68%)
2011/12	2,619 (86%)

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2012年8月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of August 2012.

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011	557,633 (72%)	9,294
2012 [見込み] [Estimate]	452,500 (81%)	7,542

(11)ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移

Raw Silk and Thrown Silk Yarns Exportation

区 分		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
		kg %	kg %	kg %	kg %	kg %
日本	Japan	388,498 34%	442,264 44%	296,578 34%	294,346 38%	245,106 48%
ベトナム	Vietnam	381,433 33%	243,950 25%	308,464 36%	217,347 28%	126,563 25%
フランス	France	96,764 8%	101,391 10%	74,747 9%	53,441 7%	87,886 17%
イタリア	Italy	93,903 8%	83,032 8%	68,418 8%	143,159 19%	39,295 8%
韓国	South Korea	33,924 3%	43,844 4%	25,259 3%	27,916 4%	0
トルコ	Turkey	54,529 5%	21,370 2%	16,165 2%	21,131 3%	3,660 1%
ドイツ	Germany		6,095 1%		3,742 0%	6,143 1%
インド	India	68,687 6%	38,072 4%	73,181 8%	3,600 0%	0
チュニジア	Tunisia	8,466 1%	2,428 0%		2,609 0%	1,205 0%
スイス	Switzerland	17,861 2%	11,344 1%	758 0%	256 0%	0
その他	the others	6,232 0%	1,012 0%	3,189 0%	242 0%	200 0%
合 計	Total	1,150,297 100%	994,801 100%	866,759 100%	767,789 100%	510,058 100%

資 料 : ブラ拓製糸株式会社の統計値
Source : BRATACBTS. COM.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2013 年 1 月号 NO.28 平成 25 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず